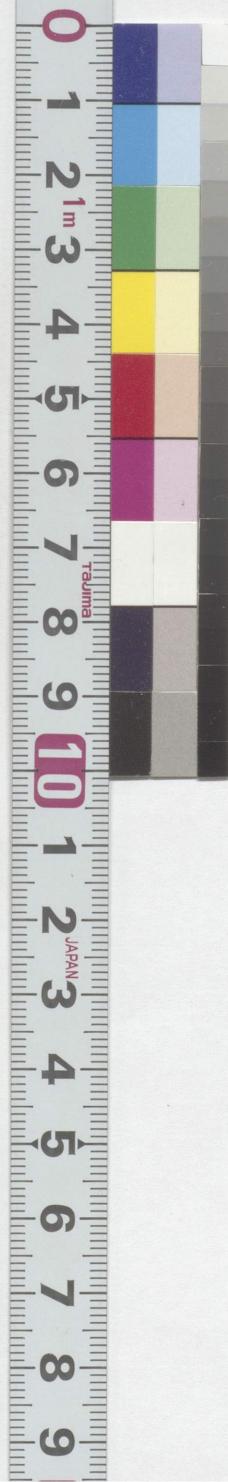


算法通解

下

わゆる



桃舎藏

○ 黒服本綿一枚賣之事  
今あふて反アシテの本綿百武十五尺ありて金五何程と問  
答全厚半寸五分武半ト張或五分  
佛四百武十五尺とあれ之反又く正合永とうると金上手  
なり

○ 今織天糸丈五尺あり毛と曲スアシテを何程と問  
答曲天糸丈八尺七寸五分

佛四百丈より天糸丈五尺をあひ定法八分そつう曲天糸丈八尺  
七寸五分とあらえ

○ 今曲天糸丈七尺五寸あり毛と絲スアシテを何程と問

答丈六尺

傳て曰曲天五丈七尺五寸とあれば定法八尺をもつて下り  
妻丈四尺と約也

○今異振天五丈三尺あり是と曲天五尺を何種と問

答曲天三丈九尺五寸

傳て曰異振天五丈三尺とあれば定法一個武をもつて曲天五丈  
九尺五寸と約也

○今曲天武丈七尺あり是と異振天五尺を何種と問

答武丈武丈五寸

傳て曰曲天武丈七尺と妻丈法九尺五寸と約也  
武丈五寸と約也

○今下り天五丈武丈あり二尺と異振天五尺と何種と問

答異振天五丈武丈五寸

傳て曰妻丈丈武丈とあれば定法九尺五寸と約也  
異振天五尺と約也

○今異振天五丈五寸あり是と何種と問

答異振天五尺八分

傳て曰異振天五丈五寸と妻丈法九尺五寸と約也

○抱きの車ハ前車に出しこれど今又後車再出しえ

曲天一丈八  
絲天八寸

異振天八寸三分二厘

絲天一丈八  
曲天二寸五分

異振天一尺四寸一厘

異振天一丈八  
曲天三寸

絲天九寸六分

但し吳坂天へ今用ひるやうをと以てとも申六舞天を  
吳坂天とひじきする人ひりあひ後そくドらふと  
善かく天と等一かくむることをかづしめんが爲す哉る

○今本縫直曲天二丈六天等多く代縫三費三百文にしき  
吳坂天壹尺の代縫仰程と同

卷吳坂天壹尺の代縫百軍八文

仰又曰三費三百文と云毛一九六セラウニメ而六十八文と云  
毛と二丈六天等すもすより毛と毛と毛と毛と毛と  
縫百軍十八文とあるなり

○今袖一疋の壹圓百八十圓奈圓五十枚付銀六十五枚並附  
あくま代縫仰程と同

卷一疋の代縫武百三十四枚  
仰又百八十枚と毛六十五枚とつまう五十枚と割一疋の  
代縫とゆう

○今一疋武五丈の本縫銀サウニ下スリレの因毛との代縫  
仰程と同

卷毛への代縫武八重

仰又曰毛六安武トスリレと毛毛をうけてあくま毛と等

つ今(④)の毛人二丈袖を買タリ百七十疋大足者有るに  
の大人出ハ福十費。八百圓(⑤)の大人出ハ銀六安九百圓(⑥)  
の毛人出ハ銀六百七十疋各毛と毛と袖仰程と同

卷(④)の大人武百十疋

(丙) あ人 百三十八足

(丁) もく 百廿七足半

佛に田各出代銀合せと式十三步丈七百七十尺を約足せりて  
丈百七十尺足半を約二步丈七百七十尺と代銀足は(丙)十メ。又  
目をとるが(丙)あ入をもとば又子は(丙)六步丈九寸目とうむと  
(丙)のあ人のえちと代又ふふ(丙)の六メ上面七十尺足を約二步丈(丙)  
のあ人のえちとよほ

○今緒一尺五ニ丈六尺の代銀九十步下に緒丈八  
丈六寸の代銀行程と同

答銀卒三處七十丈

佛に田移丈丈八尺六寸半を約丈五尺の代銀九十步丈と至ニ丈六  
丈五寸代銀とひ。

○今度わり變至天のセタストヨモ至丈五寸の代銀  
行程と同

答銀而十ノ分云トアリ

佛に田度兩端兩丈五尺六寸半を約丈五寸の代銀五十步とそそ  
而十六步二十尺アリレとひ。

○今度丈人銀丈丈の緒丈呂五尺六寸の代りふ丈人丈丈六寸の  
本緒とある丈丈行程と同

答銀而本緒丈丈五尺

佛に田善呂丈人丈代五步丈を約五尺六寸半アリ代銀足八十步とそそ  
而ととめん丈丈丈代丈丈六寸半を割替とある丈丈五尺アリ

○今矢轡上幅丈丈五寸の代九十六步ヨモ矢轡丈丈五寸

長三尺二寸半手の代銀何種と問

答銀武百二十文

御の前の幅五寸八分の長武へをより二三まるを法と云後のも  
丈五寸一尺長三尺二寸半手とみて署と平安と板と法と云う  
法の代武而之手を名と云ふ

○古手盆唐打箕之事

○ぬのこ毛り頭鐵をつあらせをウ金せくシツヒ代銀九十文  
に買十八の頭鐵のところをあらへ括算やまくもあらすうある無  
四食ト直くをゆるるに各事うちとらとまへぬのと仰銀頭鐵をう  
何をとあらせ給ふどかあると問

答田 あんせせせ四文

そむうせ八文

御ふ田もありありせのうがひは武に二とくをうそて八食と放毛へ  
頭鐵ぬのこめだい捨骨を立て武十鉄をとれ代銀九十四食  
の内をと引抜て軍頭鐵をぬのこもありありせのう割へありせ  
の代と放毛

今文ぬのこをありのうがひト畠ふニとくをうせ六分金(頭鐵  
とあらせのうがひ畠ふとくをくとくとくとくとくとくとくとくと  
西せ六食とありと云うと云うに云うがぬのうの代軍頭鐵と加る)

○今秋景やん二事みて代銀百七八枚四ト之を差うふせん  
サハ四トト當よとよだあらん各代荷種と問

答 ふき  
銀七十六文

拂ひ田ニ品代銀百七十人食田ト一達女八食田トどうて武百。六  
女八食と取どまきかの二ツリでモリ。うぎの代而。五食  
とあら。

又曰二石の代而半人八食半の内達ひ女八食田ト引継て百四十  
女セニツヒコ達がふとんの代七十人食と拂ひ。

○今古より半人食代銀三百八十六人ふ實山と内上五十中又  
十下五十あり上よりハ申ヘ内ニヨリ女すく中より下ハ内山と要レ  
上中下の代者何糧と問

上 立ヌ三百卒斗目

下 七百五十六目

拂ひ田一と重上の法とアヌ一と重内ニヨリ引の法八百三十まで

中の法とア中の中法八百三十内ニヨリ引の法セビテス六十と  
ナラヒトアの法とア上中下食せムニニヒと取ど法とア也代  
銀三百八十食をもミタ上カ代食三百五十目と取食スハセカ  
食が中の代食スハ八十目と取食是ニ又セビテス下の代七十人  
六食と拂ひ。

○二人仲男ヨリ娘のちうが毛の古モ六百と代銀十三食八百  
用ふ實山内肉食ハ銀三食四百五十枚出ア一食入ヘ四百而目  
と出ア一人ハ五食七百五十食と出走時かゆく一人勞ヨリ數  
行糧づと問

二石實山五斗食出人百五十

善 四メ六百食出人二百  
五ゾセ百六十食出人三百卒

郷三日歩くの出でまへ三メ里八十步か走る六百歩うち想代報  
十三ノハ百四十歩をそつまぐ百六十とする又走人の出へゆくに走  
日歩有る三百歩と云う者代報十三ノハ百四十歩を走る三百歩  
又五度七十百六十歩有る古事六百歩と云う者日想代報走る三百歩  
右手二百六十歩ある

○今三十武歩四十トメ右筋は量引うけてれ有る用ハ所程り  
歟と問

答曰三十步たり

郷三日三十武歩四十トメ九百步と云う者二十六步と歟

○三十步或トの古筋承入歩うめてれづけの時ハ所程と問  
答曰二十六步たり

郷三日三十步四十トメ九五百步と刻ハ郷モナリ

○今報六百九十九歩の古事小走刻、二歩三歩とれ付の時ハ  
所程と歎と問

答曰八百四十步

郷には四十步と重き刻、二歩引八步四十歩と法と一六百  
九十六步となるなり

○歩引歩の三百步又步と二歩引て正味所程は歎と問  
答曰歩・六十步

郷歩四十步と重内二歩引正味八步と法と歩引量又三田  
廿五步歩うなまく所味量歩・六十步とある

○的の中りと船も車

○今五枚の綾地足八十石以内的中りの船五辛四箇と毛羽かの何うぞと問

答八手のあう

佛一百八十箇と以て六十石箇をうち八手のありと考え  
○今的ふ中の船足九十六箇あり六手のあうに一ノ  
萬玉殿竹緋と同

答百六十箇

佛一百六十九箇と以て九十六箇と割れ數と考え

○今揚ち量箱三十手入手と六手のあうへあす夫  
何手あるぞと問

答あり矣妙量寺  
佛一百支數三千手と並せかど之をもとと考え

○系錦麻革長寛豆子うつる  
今張妻安所持系七手勢よりく精系軍官三手九疊の  
代銀竹緋と同

答代銀六十或は九十八疊五屯又系  
佛一百疊軍官三十九疊と並銀主兵の系目七手もとつう  
代銀と考え

○今きぬ系うけ目九枚の代銀十疊手とそ目三百十六文  
目の代銀竹緋と同

答百四十文

例小口を用ひ百十六文目を支給代金四十錢、六月をうち  
十武メとあらざと二百十五文目（うなぎのこども）一百八文とある是を  
前のうあ用九文を支給代金六十文と約定

○今金主義ふとあん東四百武十九枚勢子にて錢百文又  
本綿奈何程と同 程友勢錢八百二十文  
答五文目まつてりレ八毛  
例田五勢錢八英三百千二支と重面交取上之宣法九十七錢  
名ハメ文と取と法と度錢百文の丁錢九千六文をもき  
金主義のとあん東署平大安どくちう軍支文百八十文  
とうる是を法のハナリセラう錢百文のとあん東五百支ト  
宣量八毛と約定

○今支給付九支又百目三本のう綿十支付全百八十  
支替の時又本の代金何程と同

答又本の代金三十兩

例四百八十支とあらざ又本を支給するを三十支刻又本の  
代金三十支と約定

○今支給十武メ用入二本のう三十支付銀百八十支と  
の時銀相場六十目ゆべて綿百目の代銀何程と同

答綿百目の代銀五文

例一百八十支とあらざ六十支としき實と別に十武費目  
と方九十九支を支給するを以て实と別に百目の代  
金五文と約定

但し支給九支又百目入三本と大和うろくといひ

支給十武ノ圓入ニホビ西國ナリヨモニル

○今支給九百五百圓ニホビのナリヨモ十枚の代金百九十文  
替にて支給のナリヨモ何程と同

答金支給のナリヨモノ五百圓

佛ニ曰支給の入九百五百圓をあたニ千五百文ニ百八十五  
ノ目とナリ是ト十枚の代金百九十文ヨリヨリ支給の  
足ニナリ五百圓とナリ

○今支給四ニ糸綿七百八十圓替ナリテ丁綱百文ヨリヨリ  
何程と同 但ニナ智浅丁綱十ノ文

答百文ニ付糸綿七百八十

佛ニ曰今支給の糸綿四ニ七百八十圓を支給替丁綱十メ文モ

刻七文目八文と都ナリ

○今九六綱百文ニ付四ニ十八文目五文勢の因ニ備軍八冬  
綱何程と同

答綱八文目ニトニレヌ毛と都也

佛ニ曰綱四ニ百四十八文と支給十文以下定法九冬八冬ニナリ  
寫百五十文とナリ是ト一綱百文の綱十八文目五文勢の因  
八文目ニトニリヌ毛と都也

○今九六綱百文ニ付四ニ備軍八冬文目ニナリ  
綱何程と同

答代綱三文目六百五十文

佛ニ曰綱五百文八十四文目ニ備軍八冬文目ニナリ

錢三疊六百五十文と十文以下一疊法九六セウノタク代錢ニメ六百四十八文とあら。

○今金壹枚小共緒而軍武文用替にてて錢百文ニ告緒何  
緒と同  
但赤幣錢省錢八疊文

答百文ニ付其緒壹文同武チスリレ  
御ニ四疊の共緒而四十武文同士面ハ西文又ムくマテ而文  
の共緒壹文武トアリレとあら。

○寔緒ウロコニ 買賣主用

○重叠四二百文用ヨモ九千之の二千を元モニ四二百文  
主行ヨモハの緒であると同

答壹文武トニリレ七毛

○三面目壹行ホセ壹文武トウロコニ二面或十文モヨリモアリ  
ノハ伍緒と同

答八百八疊ニ

御ニ四二百文用ヨモ壹文武トモリニ二面目モヨリハ  
ハリシトアラ

○寔緒ニモ本の用十ニ六百用行ウモニ二面目壹行  
ムムク何緒と同

答四二千レ

御ニ四十武メ六百用ニ二面目モヨリナリ

○ 実足三面目一升あく三升三升あく毛と武而武十目を  
行ふやとく行程と問

答 里十武行へ

御田三十三升三面目をうも九ノ九百目と取と二百サ  
目ゆてなる事す

○ 壱升小付六升がの御三十三升入壹升の代行程と問

答 里九十八升

御田三十三升み立候とかくも

○ 実足三十三升入百八十升五トよりカヒヒリ行符  
行程と問

答 五食五升

御田八百八十升五升とあ紀三十三升をこよびを  
行の代五升五升とある

○ 行符五升五升と契の御壹升有武而八升のとて  
御目行行あると問

答 三十八升

御田六升壹升の代銀武而八升と並壹升有武の代五升五升  
とく割二十八升とある

○ 壱升小付六升の(の)縁こうり粉四百武十目五國へうり  
口と何事目みあると問

答 七隻目

御田八百八十升五升と六升とくもとあり

○今うなこ三三百廿月迄十武ノ目入の立りて仍本屋取  
そと問

答廿五卒

御田二百ノ目と多事の月十二ノ目まで

○うなこサスホ有修月三百ノ目迄支拂て付給ノ目  
へると問

答十武ノ目入

御田四百三十百ノ目とサヌキる事乞

○今草十筋付金六百八十五ノ目銀六千文の相場  
にて一把の代銀荷渡と問

修一束終へ百把入之

答報四文。八厘

御小十筋と至百把をもづて以て六十八枚をうち六十  
目とぞう定。ハリシテ候る

○今草十五筋付金三千四百の時銀お預六十日すゝく  
草百目付代銀荷渡と問 報三筋六千文入

答武安四トナリ

御云十七斐目と至み筋をもハ無く而目玉取らる  
法よりて二十枚をうち六十目を二四百目の代銀を以

○今草田五百草三萬束三百目がうて草三十束又二百目  
の代金荷渡と問

答金二十四四

佛云辛亥の二月を金星日の辛亥を三月と  
さう代金とす。

○今金星日の麻革 金費六百六十文を契約額として錢七十  
銭六分利総と同 備取替者錢八百三十文支

答 十里文四十九リ<sup>四毫</sup> 佛云支替錢八百三十文武文と金百文以上一里之法九六を  
うけて法六六今 金星日の辛亥の年辛未日を金錢七十錢文とそ  
而十毫を九百九十九文目取トと取是之屋あくらりて利息

○貸毎月で通じて利差用  
とかの利すてえ銀百七十文五文う一十回ヶ月の利息の  
分総と同

養総七十文五文

佛云先総百七十五文より利足三文をもつて総五文二下入を  
毛と取是一十四ヶ月をからむまう

○元総百七十五文から此利四歩すと十一ヶ月の利総を高  
養総七十七文

佛云先総百七十五文より利足歩きのセ文と取るこまへ  
十一月うすとあまへ

○壹歩半文と百七十文より利歩きのテナヶ月より先利行クモ  
併程みと向

養元利総武百七十文

佛云先総百七十文より壹歩半の利総五文下入て十一文

五百と減と至り百七十をとすにて多き

○利是二歩まで十ヶ月うへ元利合て三百日五時へろ  
元銀何程と同

答銀二百五十金

御え支銀十金と並是又二分の利銀武金三三十武  
金と減と法とくえ利之百日と割れ

○二歩まで十ヶ月うへ元利合て三百日五時へ利合せ  
ハ何程と同

答銀八十日うり

御え三百日小武歩と合て三百六十日と減利本元十金又二  
割とく十二分と減と法とくと本の三百六十金と割れ

○三歩まで元銀三百日うへ四ヶ月十二日の利銀何程と同  
答三十九金六文  
御え四月十二日セ三十日よりくコラヒと減こまく四月うりと  
四と減利又三百日に三歩とくねが九分と減こまく有  
四にとくねが九分

○三歩まで元銀三百日うへ四ヶ月十二日の利銀何  
程と同

答二十九金

御え四利銀又五分と減歩まくコラヒと減こまく有

○三歩まで元銀三十文四ヶ月うへ四ヶ月へ利銀何  
程と同

答四十文

卷後二百五十四

御小口二歩小口ケ月セラキタ十式とある是ニ三十枚を  
足多バ武百五十枚とある

○え銀三百圓ツ一八ヶ月の利是七十式安久國ハ何歩  
小歩うと同

答ハ村銀三歩う

御小口二百口小八ヶ月をのきニメ口而目と取る是ニテ  
七十枚をとこうて三歩をゆる

○銀五百圓ツ一三年目にえ利金每々百六十支多武ト  
ハ至れ同ハ利金ケ年何歩うか何歩うと同

答三歩半ニ有る

佛二百六百六十支多武チ又重とえ銀五百圓ヲニシテ  
吉ニ武五と欣毫と圓玉法ニ申基ハ一八と欣る内元壹と  
引持ヒ一步半の村とある

○銀五百圓ツ一三年目ハえ利合て六百六十支多武トスリシ内因ハ

此利金ケ月何歩うと同

答三歩二半ニ

但利ハ去年の利と利と加るなり

佛四本の佛毛壹率一割又セモアリ毛を壹率の内の數  
十二支ニテ是ノ毛を二半と考う

○銀五百圓ツ一壹率毛別半の村よりヒ三年のえ利合  
何歩と同 答七百六十口下ニ重七毛五步

但し二年目より利子利を加へるなり

佛田一割未ふえ一セ旭(ヒサク)を支えとたるとニ及ばず合一スニ  
八七五とあるが先銀五百目セうけてかうあり

○銀五百目セ二年支えり年の利子にて四年の元利合て  
何根と問 善八百七十匁五分ニ至セ七毛五分

但し二年目より利子利を加へるなり

佛田一割又分二先一セ旭(ヒサク)を支え五とあるどニ及ばず合せ一七四九  
〇六ニ五と欲ふえ銀五百目とみて加へ之  
五年目の元利と加る分の右の左の支えスセ合せ合六年六  
八安七年分の六安六け合せそ又本銀セ加へ之

○銀五百目セ二年の元利合て七百辛目四分ニ至セ七毛五分四も

きナ年め利子利を加へると問

善を割五分あり 但し二年目より利子利を加へ  
佛田え利合て七百六十目四分ニリセモ又え銀五百目と  
割バ至五武。七八五とある是と圓満法のぞけが支え五とある  
此内え一セ旭(ヒサク)セコロスもあり

○鰐筋十ノ目入一桿の代銀七百六十五文勢すて鰐筋武夷  
三百八十目代銀と問 漢文書鰐筋百ノ目入

佛田鰐筋二百六十六桿セ重代銀七百目とぞとある

○鰐筋十ノ目入一桿の代銀七百六十五文勢すて鰐筋武夷  
三百八十目代銀と問 漢文書鰐筋百ノ目入

合銀武百武十七文五トハ至七毛八束

御の田雞荷武ノ三百八十日を重櫻の代銀七百辛丑五文をうる  
銀十八文武面。七文とくと一櫻の入西味八文用ひてより代銀  
武面武十七文五ト八厘七毛又奈と考る。

○雞荷重櫻の代銀八面用替而一ト紙幣五十枚小雞荷  
何櫻と同 佐尾重櫻西味八面入

舊 雞荷四面八十日

御田雞幣五十枚ニ六十日セモ銀三千文とくと重櫻の入八面  
どうナ武面軍用と放と考る櫻の代五百用セモセモうる雞荷四面  
八十日と考る。

○今紙面二十帖の代金武田拂岡の重田ニ付何十帖、鷺と云  
各六十帖

御の田金武田セモセモ百二十帖セモうる。

○唐紙重半武面放入代銀三百文銀並買用七枚の代と同  
各七枚の代銀十文又武ト  
御の田百武十文を重七枚セモうワニ百枚モうる。

○唐紙一メの代七十枚又一帖の代銀何櫻と同

但紙下ヅハ二千枚一束ハ武面放一帖ハ二十枚ニ

舊重帖内六枚百二十文 並替錢丁錢十メ文

御の田一下メの代七十武文と魚面をうる銀七十武重と放是二田  
の銀六十日セモうる丁錢面武十文と考る。

○莫波紙金重田ニ十二帖努力付重帖の代銀と同

居銀五文

但支田銀辛里

總合六十日を差支田城十二帖を以て一帖を代とする

○素麵十箱付金十五田替の因支箱本の代と同

居食或田支本

御四十五日と差一箱本を以て十箱を以て金箱の代金  
武田と永武而五十文と多と支本を以て

○今支箱六百把入の素麵代錢十三ノ五百文の因支把代  
錢行錢と同

但支箱ハメ文

御四十三ノ五百文を重宝法九十六をとすゆ六百把を以て  
支箱の代錢十武文九分スリレ

○茶金支田本五日目がくふへ八日目入七千の代金と同

居金十支田二十錢

御四茶支本の入八日目を金七千を以て五十七日目とす  
是と金支田の以茶五日目を以て金十支田ト永武百文とする  
此武百文ニエ半日とすゆ六百把十錢とある是二十錢なり

○茶十二日目入支本の代支ノ武百日目を支本の代銀支  
箱と同

居支本の支本武百日

御四茶支本の代銀支ノ武百日を支本の每日三百日と  
根武百日目とすゆと是と支本の入十武ノ日とすゆと支本  
支本の代銀武十文とあらむ

○茶差引の代八十文二ノよし領七枚小茶ゆ程と同  
答茶豆目武十八文目 但レ茶引武而目

佛<sup>ト</sup>田銀七枚と差引のムケ目ニ而目セを差メ四百と取ニシテ  
差引の代銀五十目あくマテ茶の各目武十八文目と知る

○多茶粉差引付丁残二百文幣中<sup>ト</sup>残七十文小茶ゆ程と同  
答茶豆目七十五文目

佛<sup>ト</sup>田七十五文と差引のムケ目ニ而目セを差メ五百目と  
差引の代武而文小コロて知る

○多茶粉而三十五斤差引付十二斤<sup>ト</sup>程ふしと代銀佈  
提と同 答金十支内差引  
佛<sup>ト</sup>田百二十斤と差十二斤をマテ承とさうと入る

但銀和場六十目

○多茶粉十絃付金四十文幣中<sup>ト</sup>差引の代と同  
答茶豆目武儀九<sup>ト</sup>差引ハ十六斤入<sup>ト</sup> 銀衣物卒目

茶<sup>ト</sup>差引武儀九<sup>ト</sup>差引ハ十六斤入<sup>ト</sup> 銀衣物卒目  
茶差引代銀七枚五ト

佛<sup>ト</sup>田四十枚小土半枚と差引ト<sup>ト</sup>十絃小十六斤をマテ  
差引<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>以<sup>ト</sup>代<sup>ト</sup>知る

○多茶粉而引付十文又幣の付銀衣物六十目<sup>ト</sup>八引の  
代銀と同 答八引の代五十七枚六ト

傳ハ四十枚マと金六十枚マとナニ又八行カタハセナケ而行カタハをヨリ  
八行カタハの代銀カタハを有スル

○圓方カタハ百六十目カタハヨリ代カタハて行數カタハを勧スル法

行數 <small>カタハ</small> を勧 <small>スル</small> 定法	一要目	六行 <small>カタハ</small> 二千五百	
二要目	十二行 <small>カタハ</small> 半	三要目	十八行 <small>カタハ</small> 七千五百
四要目	二十九行 <small>カタハ</small>	五要目	三十一行 <small>カタハ</small> 二千五百
六要目	三十七行 <small>カタハ</small> 半	七要目	四十三行 <small>カタハ</small> 七千五百
八要目	五十行 <small>カタハ</small>	九要目	五十六行 <small>カタハ</small> 二千五百

此法ハ一と百二十カタハヨリ代カタハ数スル也

○松板四カタハ枚マありカタハ金四カタハ目マ付武十枚マの直抵カタハとシテ仰經カタハと同  
管代金武百カタハ

傳ハ四カタハ枚マと金武十枚マとヨリ代金カタハを有スル

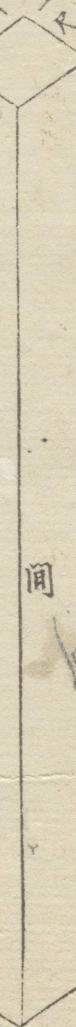
○松板十枚マと代銀カタハ又金小實カタハ金三十カタハ目マ金三十カタハ目マ張十枚マ  
十枚マ文カタハと金枝カタハの代殘カタハと同  
管支枝カタハの代七百五十文

傳ハ四十カタハ文カタハと金軍五カタハ枚マとナニ又十枚マと  
ヨリ代七百五十文カタハとヨリ

○金產四十カタハ付武十枚マのカタハ大要九百五十五挺カタハ五カタハ張  
六十枚マとシテ代金仰經カタハと同

管代金軍七百三十步

御田九百五十ス挺と並武十挺をテナリ承とモレセ合ふあづ  
拂リ六千文とテナリ代金をゆる



間

ちと屋のかく幸人写房長二間の角と天ノ幸平と云

木	材	宋間ハ二キスリレ	四弓ハ二キ	七弓宋ハ三キ七分立
吉	間	ハ五手	四弓宋ハ二キ二弓立	八弓宋ハ四弓一弓立
一	間	宋ハ七キスリレ	五弓宋ハ二キ天弓	八弓宋ハ四弓一弓立
二	間	ハ一キ	五弓宋ハ二キ七分立	九弓宋ハ四弓一弓立
メ	尺	二弓宋ハ一キ二キスリ	六弓宋ハ二キ	九弓宋ハ四弓一弓立
二	弓	二弓ハ一キ八分立	九弓宋ハ四弓一弓立	十弓宋ハ五弓
定	法	三弓宋ハ一キ七分立	六弓宋ハ二キ二弓立	金九准て無べ
三	弓	三弓宋ハ一キ七分立	七弓宋ハ三キ五分立	

○今二間の七寸角を本天メニ有リテ何程と問  
答天ノ四十九リレ

拂田七寸とうケ合セヒテナリレヌアリ

○長三弓宋の天五と武間の天角ニ申テ一尺ノ何程と問

答天ノ二キ七分立二弓入

拂田七寸とうケ合ニ弓半とうケ武弓をテナリ天ノ半萬

○運賃海一担ニ奉

○米百石の運賃銀八百或十六文あつて來之又六百五十石の  
運賃船料銀と同 但本船銀半日

舊全五百の八文三分武來ト奉八トドリレ尾

拂田後之米三弓六百五十石と重百石の代八百或十五文をその事

支銀六十圓そぞりてあらう

○米武百四十俵の運賃八百一十石米ある三百八十俵の支銀  
金何箱と同 善金軍五支武方  
佛<sup>ト</sup>田後<sup>シ</sup>の米ある三百八十俵と金支銀ある八百三十石  
十石とする前の米武百四十俵を足るあり

○米子五百石つもある支銀一百石付米サ五石ヲ折ふ  
支銀一百石付何箱と同

善運貨三百二十石

佛<sup>ト</sup>田子五百石を金支銀五百石とすり百石ある石を支銀支銀  
五百二十石と算す

○大坂ゆく金支銀一百石來立替<sup>ト</sup>の米を買て東京  
運送走而石付支銀一百石大坂ゆくその米のうち大坂より貢  
東京支銀金支銀と同

善運來立替<sup>ト</sup>金支銀一百石付米二石

佛<sup>ト</sup>而石を支銀貨米一百石を加<sup>ス</sup>而石と放是とそろく  
大坂ゆく金支銀一百石大坂より物をある

○今道遠三里の所人力車丁銀武ノ五百文みて道入里本  
の便強何箱と同

善運來立替<sup>ト</sup>の便強四費五百八十二文

佛<sup>ト</sup>田三雲の便強武費五百文みて道後<sup>シ</sup>の通法五支銀をもつて  
あめの通法三里をそぞりてあらう

○今地代金を四百十武坪の割合よりと間は八間裏行十八石の地代金何程と同

善金七百武岁

地代五間と市十八石をタナト武坪はモコリ永とまと金ニ  
上善金七百武岁かとある

○今善金七百武岁の地代の間六石裏行セ石の地代  
善金七百武岁と同 善金七百武岁。四石

地代六石と市七石をタナト武坪とタナ石(又善金の代  
金)武トとある是が武百四十石。也かとある

○今坪数四百八十坪五間は二十四間よりと裏りセと同

善金行二十間

○表間口九間裏行二十石の地代金を八百五十石に一石  
今間口六間裏行十六石の地代金何程と同

善金八百廿七百武岁武宋ト善金五石

地代九間の間口九間一坪が二十石を石而八坪とあると法と  
五石五石あ善金八百八十石と放是(代金)五  
石を剥ば金八百武十七百武岁と放是(代金)百八十石を  
金八百武宋と一残り廿八文(六十日)と善

○足案同除

足案と別の品と善るヲ善金四除六回ト善金五石と

又たゞ六酒代銀の代銀行程ありて、又酒代銀の代銀と同  
との酒代銀の酒代銀とを是と異なる品の酒の代銀と  
併て代銀とそろ列ち是をさう立てる品と曰ト。又其方の酒  
うちもその酒を割り因除さう故不見と是を因除といふ  
は法を専らある。此の實業袋備北寄鷺鷺等をもつめ町元  
をそホホ取る。此等此れは酒の酒の酒の酒の酒の酒の酒の  
之法也。

○上酒を年古半の代銀而卒武を以て酒武半軍の代  
銀何錢と問

舊代銀武百八十八文

佛さ曰酒の酒武半軍の酒の酒  
一斗古半そ割だ酒の代銀とゆき

又是の品の代銀さう後て酒の酒へ是の酒の代銀を  
同品の酒をさう後の代銀をゆきあり

○今米至不七斗の代銀三百六十枚より銀武十五枚、米行程  
舊米至年米至八合至タ。六四

佛曰後の代銀廿五枚、一斗の米至石七キリを前カ代ヒ百六十枚  
エセラリ後カ米ヒムシ

注曰前の銀と後の銀ヒナ数是さうと以テモ同品之  
又是不ヘ未さう放後の銀ヒ是不あひ米ヒを同品  
の代銀をさう後の米ヒムシ

○今道法ニ至ル人力車の價錢丁錢至百五十文而ヒ乃法  
七里半の價錢ヒムシ

善貸残二百武十五文

御田後の通法七里半一年の貸残を六百五十文とすが前の  
后法三里半そう後のの貸残とゆゑ

源田前の后法と後法の后法に里数異よりとの一年後法  
あり又昔ふととなちる前のの貸残と同一の前のの后  
法とう後のの貸残と別え

○今元銀七百五十日の利銀十八文七分八厘とえ銀三千百  
八十日の利金筋程と同

善利銀八十五文五分

御田後の元銀と四百武十日の利銀十八文七分八厘  
をその元銀七百五十日をう後のの利銀とゆゑ

近前准ス

○家権底押善板の積りの事

○家根をう支え文四八寸武を長さ五寸四分半ほ數と同

善十丈根四丈

御とう支え文四八寸武を六人五寸ま二分半とう二分八とう

丈を五寸四分半ほ數とゆゑ

○四者をうかけと行五寫の底根をからたの躬の出出幅あ方  
としに武とあはせは數筋程と同

善成十四根六丈五寸

御田后者をうと二つみう二つとよ小六尺五寸とうと五寸半ま  
三尺をうと五寸をうかうむ四寸とうと五寸六尺寸とうと五寸六分半とうと五寸  
を合て大坪さ四寸と放け支え二尺とを合て百六十九とある  
毛母七根をうと共よ百九十六とあるとと開く平ひらのをうとが支

田天とまつこまく朝の出端武天と加く吉美六人とまつぶニをとま  
武天と一まつ考の長六人五寺ふとまくに間九かニリシニもとまつに  
けと行五者とみを知る

○正木七百二十丁至幸寺廿六亩三十五町子ノ代稻田稻  
寺四百七百二十丁、六亩水トヒミツ

○正木幸寺七百五束、庵地と近今、直三年八束三二束半  
庵地と同

正木十七丁

寺四百三十束五束と天束をとまつたり

○家振女七坪あり、幸寺と金木里子とまつては二事半丁と同  
寺四百二十丁、二束半

○た波太婆半模りの事

○毛間里人破綻寺十九束五トツ又二百八十人分佈帳と同  
善根寺裏高面積武合三十ト

寺四百八十五人分十束五トトと分てより方籍を取る

○三者うちの志和のむかがいのむきまつは天林のむきまつは全  
此詳教所程と同

正木七坪二千八百四十毛

寺四百の紀のうサ壹寺田大本様のうサ吉美八人と加く三十六武天  
と底み三者うちとみきまつは三者うち田博八毛とあると見ど二百の

長サ六丈五寸みつる者

○七帳定より多きの如く十二枚あり總は枚何種と問

最八十八枚八十五  
納ニ田盤十枚枚ニ主役の帳數七坪四分とかくも

○去處帳ハ面武十枚ニ代板五十六枚六下の内主帳の代を問

若板四分八厘  
佛ニ四丈ほの代板五十枚六ト金主帳の七面廿枚をも

代板四分八厘をゆゑ

○今去面八十枚主帳と裏筋つゝそむづりはて時ちそか  
何保算する等と同  
若板四分八厘

物と去面八十枚と曰ふ者あそぞう増數をゆゑ

○今武間ニ二弓の筋あり前もるサ武弓株の主サ至万本出士  
三様ナリ今用トあらずすてニ弓本五間の筋と之にのちサ  
十四弓ナ株の主サ主ま八天ふううる同ハ此去何程入と問

若板四分八厘

佛ニ四弓の主サ武弓本株の主サ主ま本と加ニ四間少くある本  
有ク武弓本と之を本株とあはれ管子ニヨリ主ま本とあはれ  
筋あくけを取たる方と表方あく六弓とト  
つたのくるケ武弓本と之を  
ト武弓本と主ニ弓本ニ二十弓株を法とすし主ま本と表方の筋  
の高さを主ま本と表方の高さを丈八天と加ヘニテ武天と云ふもの  
二弓本と之をハと改又之をゆだスルと表方を十間と一軒を高  
主ま本と表方の高さを十弓と云ふ二弓本ニ二十弓と表方を主ま本

六尺五寸二分引ニ十三博八分口六五ときみあひの去ニ渡と存六十  
七博六分九二三と一法の二十一博と取て居るなり

○山去七分半傳出三分引支るノハナムヘヒ山去三傳と存  
君壹博ニホハ五セ 極ニホハ五セニキサキモ吉野ノ高  
傳ニ田山去ニ付どセホラリ四ニハ五セとあるニ又ニナヒセラシ  
傳ニ田山去ニ付どセホラリ四ニハ五セとあるニ

傳ニ田山去ニ付どセホラリ四ニハ五セとあるニ

○爰から事

○今博密林合十へあり此代残丁餘百廿支文ノ世シ博ハ三ツ  
ノ付十支文子のルハ一ツニ甘木文定各半數と同

著  
博  
九ツ代九十文

傳ニ田合數十五を金十文を存百五十を泊と内百廿六文を  
川余り金十文を寔と表別ニ十文の内六文川余寔と取  
是其法ニ一と以て寔と存リみづの数六ツと泊合數十六文  
六ツ引余九ツを取る

○今スミル六ツと博九ツと代残丁残而母六文と實因博トヨリ  
みづのハ一ツニ付支文安一各星ツニ付支因博程と同

著  
博  
三ツ四十文

傳ニ田合數六ツ半支文と之の半サ支文と取  
百五十文を成と寔と別ニミル六ツに博九ツと加く十文と  
取と法すと以て寔と存リかきをツの代残十文を取れ  
内空文引ミル半支文の代支文を取る

○今紀を銀入金三百圓と申し二人余是ども甲の差銀のみ  
五銀うち七百日裏一甲ひえ銀各何程と同

答 甲ひえ銀三世百五十日

御向差銀五世六百日と至る差銀七百日と加へ人數式人を割  
甲の差銀とりて此肉足銀七百日と引余ひの差銀と同

### ○盈胸

○今入集りて黑白の巻石と云ひ者を數及人數を知らば支  
毎に巻石五ツ宛不等ハニツ金る又を人每に白石八ツつを是れ五ツ  
金り但一巻石より白石八十八枚と云人數及黑白巻石数を同

答 人數五人 巷石廿五箇

○大物を仰る者を入れ差銀ト但シ仲間の人數とあくび日銀高  
きあれば此狀の主人がひ銀七十枚ア生せば五十日より八十日で  
出せば而日金事と云ふ人數及銀字と同

答 人數十五人 約束金一百日

御向金品百目と是れきる五十用を加えて百五十日と取次て後  
む一ヶ月八十日の内生の如一ヶ月七十日と引て十女減ることわざにて  
而五十女セヨモ既に人貞十六人と加計十五人、七十女とぞそぞも  
五十女と取次て生す五十日加へて銀字を差し一百日とあるまゝ

大勢中石を入れて人貞をめぐらし銀をとめど武祖れ既  
み曰く是人あふ報武百日出せば八百日金を又武百日出  
せば二十日金をと云人數銀を各りんと同

善人數十二人

報字を八百日

佛四余り金の六十日之内余り八百日引みて武百日金をと云  
おこ清のや一報武百日金の内先の出報武百日と引みて或千金  
とある先を右の武百六十日と云ひば人貞十二人と旅此十二人は  
武百日と云ひ武の六百日と旅内金る八百日と引て易き  
○又报字をうきる佛と云出報武百日と云之半日とを或百十  
日と云と旅又出報武百日金を八百日金を百七十六日と旅  
多き内がれと引ケ六日と云て二十六日と旅と云出報武百日と云  
或千日と云ひ二十日と云と云て八百日とをも

開平法

先位見

と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと  
と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと

大方取

と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと  
と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと

二方塗

と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと  
と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと

角引

と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと  
と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと

平塗續而平四様

と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと  
と云は教えずあると先太子の御事す方の旅と云ふと

傍見



精



度を十とあるや、十弓里方と云て一面評量と引  
とを後、十弓と云て一弓と云て十と上一上と

三百六十五石四萬石あり  
十三方三三二石四万石あり  
四方より一石四千石あり  
ひらり

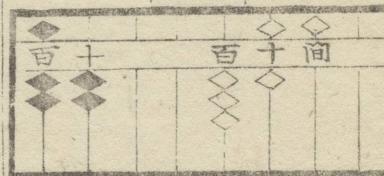
### 大方

ひらり

### 開矩塗立圖

日	月	年	甲子	乙卯	丙午	丁酉	戊亥	己丑	庚寅	辛卯	壬辰
大	方	塗	三	百	六	五	石	四	萬	石	三

正



### 立法

辰之閏辛之用の九九の立法

### 九九定法

一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
六六	二百六	七七	三百零三	八八	五百三	九九	七百九	八八	五百三	九九	六六
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

### 先位見

とおほきをまつてあるとおおきな間をとる。とおほきをあらわすのであり。

### 大方取

とおほきをまつてあるとおおきな間をとる。とおほきをあらわすのであり。

### 三方塗

とおほきをまつてあるとおおきな間をとる。とおほきをあらわすのであり。

### 小角引

とおほきをまつてあるとおおきな間をとる。とおほきをあらわすのであり。

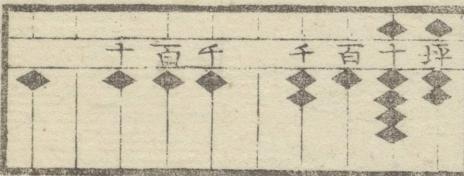
### 三間四方六面積

二千石九十七坪

毫石四萬六千石

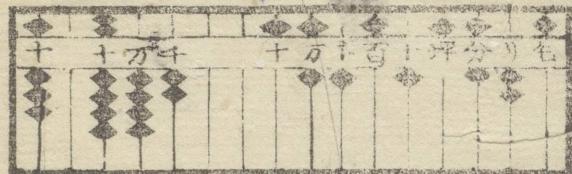
十三石一百

積りを重ねると紀十の位まで左方に十四と  
あり、一方の面積を算するを又は十石とかけたを  
重ねと見る。是れどあるはつくりと減じて上に付  
て十間と大方と互に紀したからには破算し  
十石のつぶのうちふくみ石九十七石の分を  
とるをかくべ)



左昭右

貨

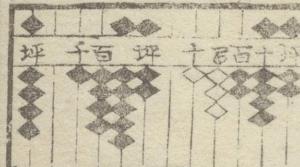
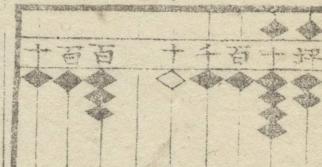


総五十六万五千五百十五坪六分二厘五毫七里方八百四十二丈八尺八寸三毫七絲

まわりあひて一〇〇百と位なるとひて百ア  
あひて百アの位とひて百アにあひて左云  
ふ八十間とあひてあくを合せ八六あはる是も  
八十八をかく是が六十を万武ふほんこむやどを  
ある坪づりうで減トスムとへ八十と余りと  
立つたの左右にまよ被義す八十の下  
のところ四百九が五百十六坪六分二丈

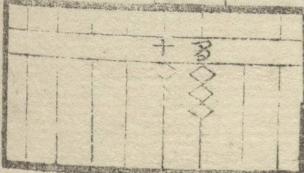
次の書にあ

左昭右 奈木 章

大方 大方 残  
ワキ 安 四方

上ふ立大さみのどく又既退て又十間とあひま  
本大さみの十間ふ同一の百坪と残是ニ三方と  
かくをば三百様とまつ是と同安よりてゆう坪  
上一尺とふる因大さみ十るの次に又三百立次  
のうそく二百九十七坪ありマ既の同安へまつ被  
義す又次の書にあ

正



大方 残り									
金	十	百	千	万	分	理	毛		
一	九	二							

上より列大方などと、先の八十ると  
ありをとふ大きさ八十間をうす見だ六四と報  
そ直ふニ角とかく見を一九二とあると見て  
同安はくそめどうり辨と書く一トロうる  
うに大方八十字づだか又二弓立次のと  
きも一方五百十丈は六三五ありうれいの  
用處にこえ破筆を

又次の學もあり

目安  
一九二

大方 残り									
金	十	百	千	万	分	理	毛		
一	九	二							

左服右五六八  
大方 残り

大方の次が後立三百と二二四様とかられ  
ありぞひてたかあれゆくつとおちに大方の  
八十るとあきをきみニ角せうすば二百に十  
間とさす又つだの二弓と加えて二百零二  
弓ありとましあたりにほどくまが九百六十  
八弓これらとど二弓のニ角小角ふ割のと  
せほでりなり八十弓のつだふのどうく  
二五而四十七弓六百二丈八毛

次の學もあり

左取右			大方	又リ	残り
六二五					
分	半	千	坪	分	毛
十	十	十	十	十	十
百	百	百	百	百	百

上ふ八十二るの次み満するを  
五五二をスリレシワキふあうぞひそ  
方に垂スルをちよくとて五八十  
ニるをかたを色み三とくみえつまの  
するをらきと三百四十六るをあう  
更ふ左の二をスリレシマれ  
ハ六十を坪六へ武リレス毛と  
あるをとせんの三角と  
小角に下みの三角を引もと  
正八十二るすと見ゆるを

正

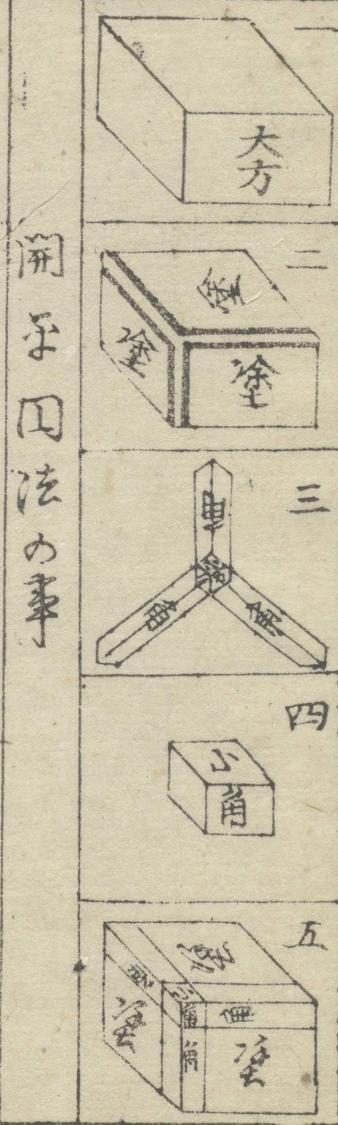
△	△	△	△	△
△	△	△	△	△
△	△	△	△	△
△	△	△	△	△
△	△	△	△	△

## 安目大方 残り

二〇一ニ二

金	◆	金	◆	金	◆	金	◆	毛
十	間	十	間	十	間	十	間	百
百	十	百	十	百	十	百	十	坪
十	万	百	十	百	十	百	十	分
百	千	百	千	百	千	百	千	毛

トホミ八十二るとまづらじふそりぞひく  
八十二るとかむ上の八十二るとうけ合六七  
四とあるこれみ二方とうまび二號一七二と成  
と直と同安に一ノミカニヨリほどと下多ニ別因  
八十二るの次ホ又半る空下のひりと空  
一坪六三五ありマジタの同安ハラヌ破さんを  
又次の図出せり



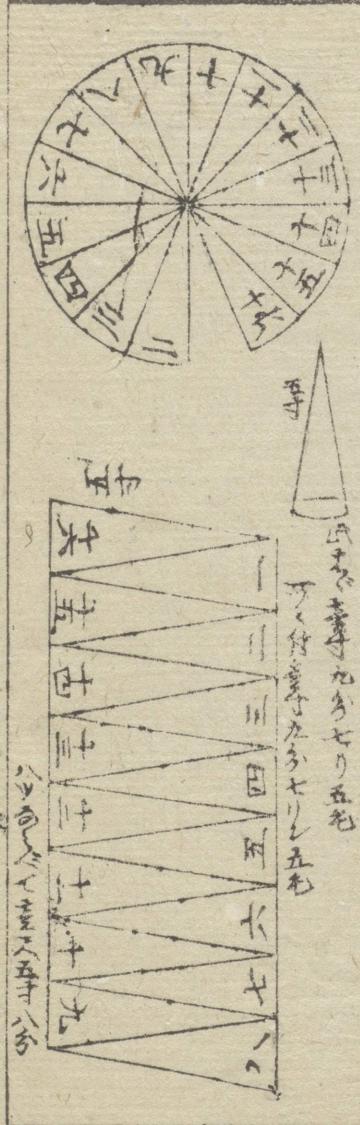
### 開手四法の事

寺等方の手辨を八百七十度を差にして持渡れ程  
或と同 留持渡レセス 持モ田舎様ヒ宗様セカビ取レ  
ハ故持用國事法名是を除經七天と為之右經七天の丸の  
持教ムトスと紙セ人取ニ至リテ金渡セ九十七十才持ニ  
八百七十度あり是本の様とある也 持渡セ天の象也  
何程をと同 留三支不等手法ニテ後七天セモ半持

### 指渡レセス



此系手法大五天五日是才辨柄持程と同 留手セ  
八十程と云 捨モセ手書五手セ森木重ナリ合三五と  
尾セ留度上二天の田舎様セ別ハ持モセ又空ハ三五  
七九二四七九ナリセモタリ又手ツドヒニテ一六、二四、四、五、七、九、十、十一、十二  
モ甚セ森ニモ合セ九ナリセモ持教ム善れども是ハ  
通テ只手ツノ道セ持モ因ハ次の御くまく



秀積りモ九寸モトモアリシホト向  
ノ素ニ素守等の標段七十九あり候スくセナシテ又玄く  
セナシハ何とモセカシモト向舊田法セ五の圓徑素美の  
圓形周リニ天素ニニモアリ國リ十方無切セモ一ツ才若サ  
五寸をニ素守九寸セリレスモツレハ徑畫人ノ事也リニ八寸  
六寸セ十寸セコムハ素守九寸セリシ五毛とモニ又十六セニツユ  
寸八毛と底毛ニ五寸セカラシトノリセ九寸底毛秀積リアリニ  
又素圓セモアリセ一二六四セシモコヨビ標ひ底毛ハ指海  
度ニテ度ニ天素年六寸五毛ニ至リスル則ニ寸は九百卒八五六毛全  
是ニテナホセ九寸四毛ニ至リスル二六四とモニ史十二坪六寸写リシ  
月名ナホ津ニ素守ムアリ

長

今直あり接六十ニ半長平和又古寸長サ及  
半柄徑と同 但シ長玉わ素美ニモト合せラル教矣  
善 長九寸 平せ寸

直

拂面相素人守ニ重ニツカニ別ヘ重毛ニモ拿  
内段六十二寸ノ前後平方ニ開キニモ有別  
金段ニ加長ノ酒毛ニ和天六寸之行平セ設毛

今直あり接二百二十圭半長平另等長及平柄徑と同

若長素人七寸 平素人三寸

拂面相素人守ニツカニ別ヘ重毛ニモ拿  
三百牛革等ニ加ヘ平方ニ開キ素人五寸セ乃別ヘ重段ニ加  
長素人内素守等有事ニ加也

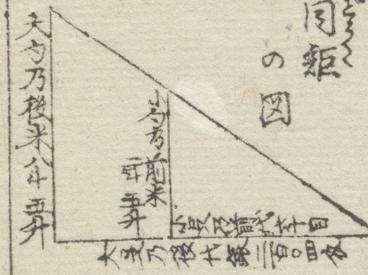
○ 国 級 比 例 例  
 同級とく假と毫と同ド據好といひ比例と被列されと毫と布と云  
 乃とえが米ニ年五種の代銀六十日又は三十日ニ米年五種の代銀  
 三百〇四文ヨリ前後中本代銀各同割  
 並もととある國ド據好といひは國ト  
 事とある國ト據好といひは國ト

式 之 圖	比 例	
	上 級	下 級
前來三事弄	前銀六日目	前行
後米年弄	後銀二日目	後行

○ 比例式と假うゆべそかの米式耳次升と  
 前行の上級一重前の代年目と前行の下

級一重後の中五升と後行の上級一重後の中五升と後行の  
 下級一重五升とを合數ハ國農米年五年と②若代銀年目と合る數と同  
 次ノイ放ニ③一國セモニホセ刻④後の代銀を加又ニ⑤一國半升ニトモソ刻  
 ⑥承の求どる又⑦一國セモニホセ刻⑧國農の求どる又⑨一國セモニホセ  
 ⑩若代銀を加又其餘の差額の差而モ毫アリ時モ⑪一國セモニホセ  
 トキ亦申ム又猶多申ム

### 同 級 の 圖



式 例	比 例	
	上 級	下 級
前來三事弄	後米年弄	前銀六日目

又上の圖の二く前來と小ちよとく生代銀皆小豆と良  
 附ハ後案へ天向みとく代銀へ天向みと良天小  
 の匂假同様好とて而も  
 同類あり此類ふよりて比例  
 ふと爲る國の米の比例式と  
 合國ド用ひ毛さまし

今道法十二里が所人力車を起の賃銀九百五十五文を道法十二里の賃銀と同

### 舊道法十二里賃銀七メ八百文

例後道法十二里へ前の賃銀九百五十文を  
足前の後法十二里をつう後の賃銀と同

比例式と後の方先の後法十二里を上級  
金子の下級へ前の賃銀九百五十文を又後法十二里を  
上級へ並の下級と後の賃銀の級とある前法の如くを別之

今金壹圓、付利銀五百四十文にて武千發五トウ

元金と同 質金四百五十円

例後道法十二里へ前の賃銀九百五十文を付利銀五トウ

比	道法	級	賃銀	級
後	道法	十二	後賃	五百四十文
前	道法	三重	前賃	九百五十五文
後	道法	十二	後賃	五百四十文

比例式と後の方先利銀五重と上級へ並の下級へ元金と並

又利銀九百五十文と上級へ並の下級へ元金と並

金壹圓、付利銀九トウの利銀と賃銀。五重の利銀は元金何程

舊元金四百五十四

例後道法十二里へ前の賃銀九百五十文を付利銀五トウ

比	道法	級	賃銀	級
後	道法	十二	後賃	五百四十文
前	道法	三重	前賃	九百五十五文
後	道法	十二	後賃	五百四十文

今上酒二升の代銀と下酒五升の代銀と各取引へ今上酒二升  
五升を取て下酒を換んと後半下酒  
何程同 舊下酒 武斗二升五升  
例後道法十二里へ前の賃銀九百五十文を付利銀五トウ  
を前め上酒二升をうり下酒を以て之

比	道法	級	賃銀	級
後	道法	十二	後賃	五百四十文
前	道法	三重	前賃	九百五十五文
後	道法	十二	後賃	五百四十文

今所處室間五間奥行九間の備地代銀武百錢五トに一ノ又  
写口十二間奥行十五間の備地代銀何錢と問

答備地代銀八百七十ヶ金五ト

御の前間口五尺一寸奥行九尺二寸を四十五坪  
換と減と前の坪数と次又後の間空と高さ  
乗り十三万をうむて而九十五坪となると  
後の坪数と手差へ前の備地代銀武百錢五ト  
數算五株をそく後の大代銀と換る

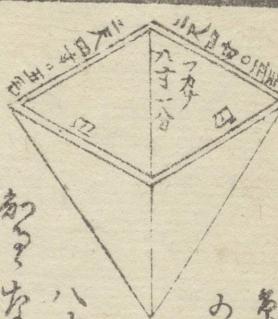
坪	数級	也代銀級
前四十五坪	前地代三畠下	
百九十五坪	後地代銀	

比例式と後づきの先高邊の坪数をりとめて換て前の坪数と  
上級へ重き下級へ地代銀と並又換の坪数と上級へ重き  
下級へ後の地代銀の級とし法の多くそくより後の備  
地代銀を換る

### ( ) 準統御の事

茶枡二斗四升入の茶葉と源サハ寸一からて写方准  
のやかん底とらぐるを時口度行經四寸二分と同

音口度武天尺寸。又毛写方と改



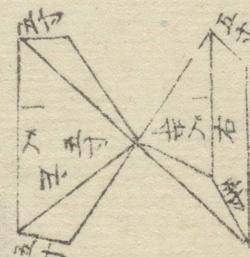
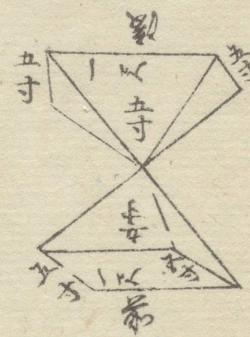
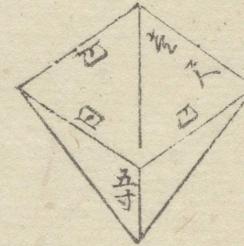
御田計法六百八十七分二年四升とうけ御源サ

八寸をもと次とおり渡開平法示除之時口度サ  
御すなり。同二年四升入の茶葉と口度二天写方。又毛  
源と云。御六百八十七分二年四升とうけ御源サ  
五寸と改め。左の四六七五四四と云ひ。又御源サ  
右の四六七五四四と云ひ。又御源サ  
右の四六七五四四と云ひ。又御源サ

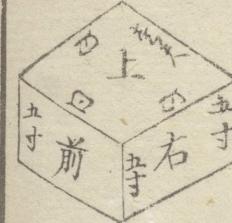
とうけ御源サ六百八二七と改て割又開統の法と云ひて割

圓八角切合あり。又して底と並びるもの八口或は丸く或は長く  
又の三角六角の切合あることを稱て割八角模也。

### 海綱二種の号



### 海綱二合の圖

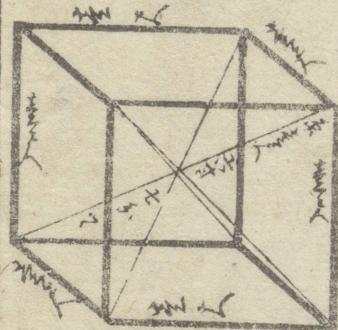


○

○ 海綱の法二の起りのまゝ人里寄らぬに五寸

海綱數六とひはと面ふと六四と六四の重り  
合図を人里寄らぬに又口の後海綱数二のどくにとり  
是と海綱の深五寸あるゆき其中より二ツみ

### 圓明綱脚



割八角人里寄らぬに五寸と人里寄らぬに五寸  
を人と處と裏より合相深五寸とひはと後海綱数二のどくに  
一ツもかね知るゆき是あり起りのうりノ又口の後サセと裏を  
合せ直す深サセと傳して之は後六口を口直すほ數多る是海綱  
法のちうなり又口直す裏を合浦きどうけ三三と云ふと  
も因下接を空乞ひまゝ人六面の綱手の二ヶ一なり

○ 海綱の後を取らるる者とあてがくのを  
ふかせたれ本とひはとあんぶんのさやのじ  
そくまへ六面よさへ上口甫とふゑせ付  
まへすせちづみのむべつ口角に張  
ちぐる時其の中ほく里をがの東が合  
をひとひとひとひとひとひとひとひと  
あひとひとひとひとひとひとひとひと

百五十七

## 句死

## 刻の景

あるひへこすわらがの延

行ひどく同

善にあざりし。三葉

拂く手せめを含せ九とある是に  
勺配の玄纈而加一圓よどほく降く附れ  
善人にちて重の出來と成善人へ四の三葉

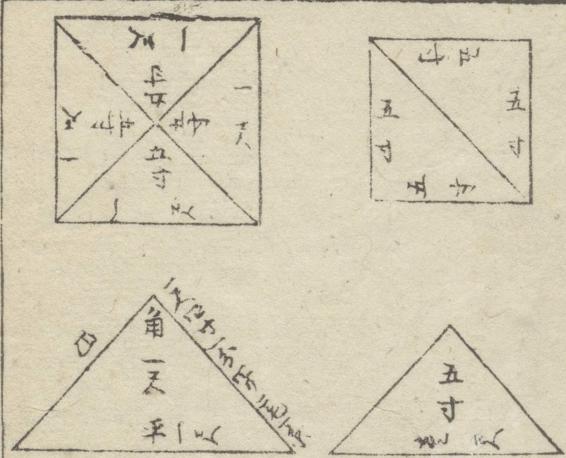
足りて重の出來とのびと加えより

右の圖五分を善人半分のより付る御多用せんたり  
たゞぐれ行手行か行重かノモトトリの手の品ちモ色とあふ  
重の金を降よつり御定法而ぞ加一圓半と稱て降く附  
四の手の來と善人減ド拂りとのびと加えより

## 此法の長サ何程と問

善二人武寸八分

佛の四七寸武分と右左重うけ合て五重  
八寸と重又三人武寸と重を合て一〇二四  
と重と双方も算びて一五分ニセと放量と算重  
と算て降法の長と算之



是、又商より年への五寸とかかる間の寸は二十五ある。宣法二

### 鱗形二五の圖

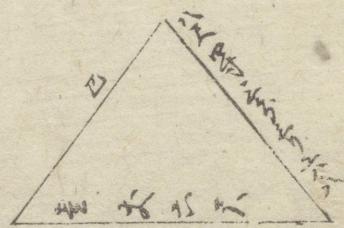
うちが下年の裏面を合ひて算して割りも  
内鱗小底といふと多く主に四方のうち平  
度人のうちと積にワある。又より上のもの  
如く又商より年への指そつて一尺四寸  
をのけり。乃長さ細くとひよ果のと  
とく角より平度人ある間の寸は人  
等一分四厘二毫一厘五毫あり。美等一分  
四厘二毫一毫である。すなはち倍の法圓や  
を以て除くと割り人位シ二商八六六乃  
かうに立つてある。

### 鱗形法の事

今度人四方の平は六十寸あり。重をうろこ形と  
あく何程か減ぞと同

吾平度人六尺 短八尺六寸三尺三寸

六毛八糸九寸



例て曰有鱗六十寸ほどと宣法二五と以てマス。圓法  
不降之同下長度人六尺とうる毛を折半す。度人  
商より年への短八尺とあらば、一尺一寸二毫を差す  
のりの長とあらば、ありうる。又古のうちとぎて鱗のつくりの度人年六  
尺とあらば、度人合はて宣法二五せねども、六寸短と知りて又長一  
丈六尺とあらば、度人合二五六とまことに。とくにても、圓トウカリ  
ううと取れ宣法二五とあらば、先下の度人をもあらうとて、度人より  
年へ五寸あるとううとども、とりえ年度人を折半す。度人五寸とま

二角の法と事

走るは方の平様五十七坪四丈武重毛足せ二角

みて一寄の弓何復子成と同 言十六弓六丈

御四至并と宣法四三と弓を割毛と圓半く塗毛と

二角面一方の弓数かと之

弓三角の弓数と積因ハ十人ると弓を合せ宣

法四ニニと之毛五十七坪四丈武重毛足と切と

面ニ丈あり二角中の經何徑と同

言南毛六弓一丈美セニニ寸武合

御四法八六六毛武丈とから毛が知毛と

此角毛毛一丈美セニニ寸武ト五七弓毛と人并

何徑毛と同

言八丈徑而七十三弓武合

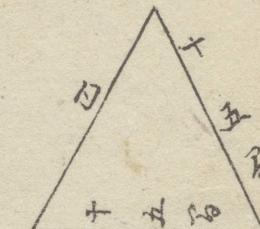
御四毛を走せ二ニニ寸武毛とあひ毛をあひ毛を渡一七ニニと弓  
毛毛と七十三弓武毛とあひ毛を走せ二ニニ寸武毛と  
八六六毛毛と弓毛毛と走せ二ニ角の面の毛サとあひ毛毛と走せ二ニ角  
毛毛と弓毛毛と走せ二ニ角の面の毛サとあひ毛毛と走せ二ニ角

二角の法四と二の事

二角の面四ニニと弓毛面毛人の二角毛すほ四十二弓

走る毛ある毛走る毛とある毛走る毛

法求御二角面毛人ある毛走る毛と二弓毛走る毛  
寸六毛六弓毛走る毛と二弓毛走る毛と二弓毛走る毛  
五寸毛走る毛と二弓毛走る毛と二弓毛走る毛と二弓毛走る毛  
二角一方の面毛走る毛走る毛と二弓毛走る毛と二弓毛走る毛  
ありとりよ子とあひ毛走る毛と二弓毛走る毛と二弓毛走る毛



言て曰子にあらば篆法ふうとくかるあり。佛の面畫へど  
左方より耳をあらせ寸幅百あり又耳人ニツヒコロ五寸とあ  
ふかたけ合二千五百ばかりと見て右而極の内減トあるモノ十  
五ばかりこれと聞よどりかくもとくとくハ寸六分六厘。二角  
とある下の二角へとくもハ六六と底く法と考え之是ふうとく  
に二二の法也もやうあり本換ハ四二と。一より又二角の左  
ありまの若サをものさうけ合一七二二と似く別牌數を知る  
事ハ兩至人の二角のすくはり平八寸六分六厘と在り  
耳を含せる肉暦七十四九九五六と云をとすがほにととせり  
耳を一七二二と歟。是よりかるあり。

### 六角の法の事

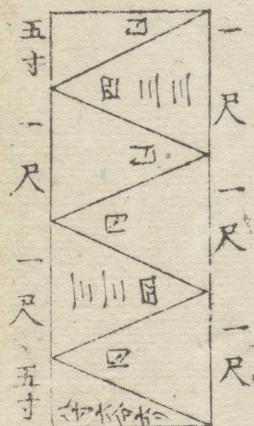
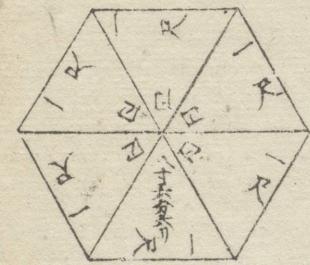
を寸口方の後かひ百四十ス坪よりと見と六角ゆと一方の面

何程や小頭と問

管走尺五寸取ると云

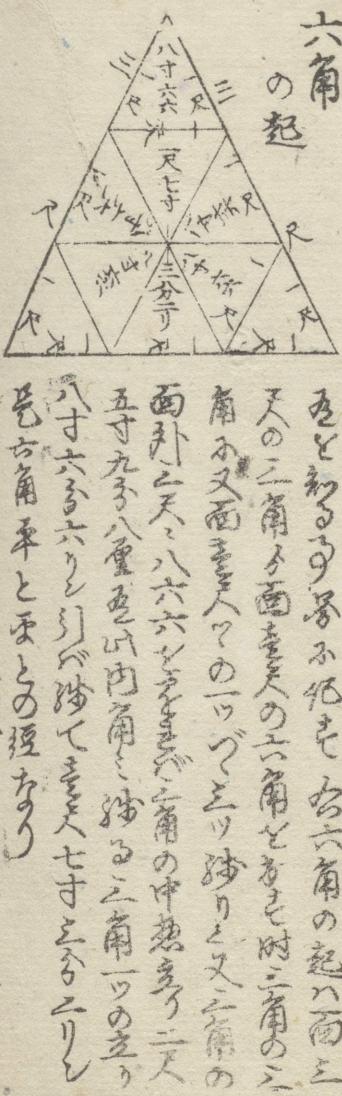
佛の面篆法二五九八と取てそうちと圓平  
とりづく除之時ハ六角の面かくあり

右古角のほ數積る時ハ面走人五寸とたぢ  
蓋々合定法二五九八と云ひてふ三百にす據  
五分とあるう



○六角の法二五九八  
いのく面走尺の  
六角一寸四方の  
積二百五十九坪  
ハと云ひてこの  
事とす

積二百五十九八号空法也。法を求め六角の面を人を四へま  
後に至る七寸と二リシモ毛とニツコトヨガ先中追ハ寸六  
五毛と面を人と二リシモ割て五寸セラ直ス四と五と歟是と六方と  
くる四二五九八と歟是より法也。



六角の面を人を四半分(ま)面を人七寸と二リ  
五と切るより各不化毛と六角の起ハ面三  
天の二角と面を人の六角をもと附ニ角の二  
角又面を人の一リジモツリと又二角の二  
面外ニ天と八六六をもと六角の中熟テアニ天  
五寸九毛八重毛と内角と拂毛二角一ツの立  
八寸六毛六リシリハ拂て至る人七寸と二リシ  
毛と角平と天との經ナリ

但ニ角六食六角毛又系の拂毛六角起法也。

### 八角法の事

至る四方の積武百或十握。セリシ毛と八角より一方の面極  
み取毛と同  
養五天ヲ五次取毛とリ  
御の積教武百或十握。セリシ毛と空空法に八二八にと取毛  
毛と用毛と次除之兩五天と約シ  
空八角の辨教毛移る四ハ面五天と左宿毛あたる毛と空度  
四ハ二八にと毛と空八角武百或十握。セリシ毛と一毛と取毛とリ

○八角一側毛と毛五寸四方の辨教毛と同  
養五而十握。スニ五と六

八角の辨教毛の四寸と五と六次毛の毛の五と六  
とす一丈小と毛と取毛とリ  
御の角と角の徑二天六寸八毛セリシに模一天



五天

四

四二百共様。セリシ毛

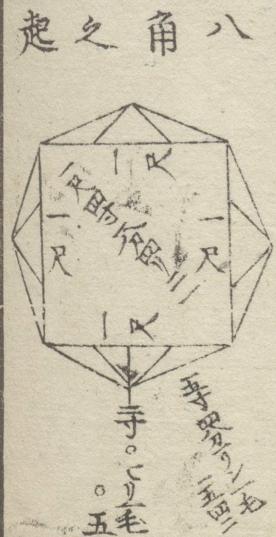
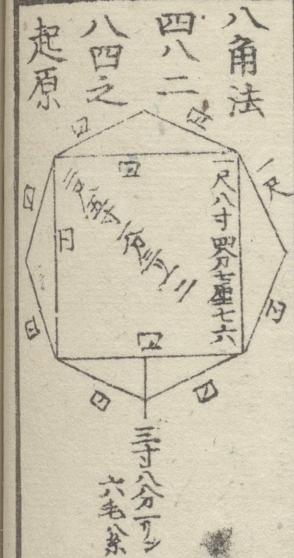
日

四

八角の辨教毛の四寸と五と六次毛の毛の五と六  
とす一丈小と毛と取毛とリ  
御の角と角の徑二天六寸八毛セリシに模一天



九寸七毫五絲六絲  
合八角のまきの儀天吉す八寸七毫五絲六絲  
食一尺一寸二分二絲を以て割くと原法と改定法也  
又平えノ年ノの儀角等を度一二。七一五割  
同トハ角の西本二尺四寸ニシテうすび平と奉る  
徑りと刻之日面ニ二六一三ニシテ之れハ角と角  
との併うかうもう



四	此坪島十二坪四分二余
日	八四七七六
余	川引大く
四	八四二八
合	四百八十一尺八寸四分二余

法 定 比 例

八角とあると見て天吉方の角をうす  
の代にすきを四りと二毛一絲たりと  
ニツカ割バニ寸。セリレ一毛。五忽ゲ  
毛と自考へて四八九三四八一。二五とある  
又考えどニツカ割五寸と自考へてサスケ  
あくらみくせ九二八九二四八一。二五あり  
是と圓はとおりて除之因八角の西又  
寸四を一り。一毛九系五毛とある  
又法あると見て是とお無一ノく  
考へて出ださく考へ一

一尺八寸四分七毫六絲

四

ヤカナハ用一川大

此坪島十二坪四分二余

今立方あり面八寸積何經と問  
蓄積千二百八十榤

御之玄面八寸とを合又面八寸とをそそく積とゆき

今累のどく方面三寸を力守積何經と問

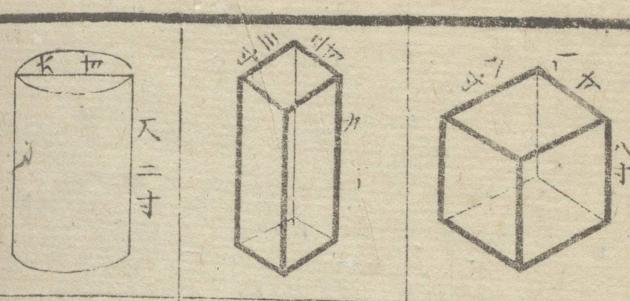
蓄積八十壹榤

御面方面六寸とを合有九寸とを積とゆき

今累のどく面徑六寸を天武寸積何經と問

蓄積三百三十九榤或九十九武毛八系

御之玄徑六寸とを合有天武寸セを又七八五寸とをゆき



今制御あり徑七寸を天ニ寸積何經と問  
蓄面六寸七分。二重八毛四系  
御之玄徑七寸とを合有天ニ寸とを又蓄積率  
七分八五四とをゆき積とゆき

今方椎あり方面九寸を天武寸積何經と問

蓄三面二十八榤

御之玄面九寸とを合又面六寸とをそそく剝之

今累のどく面徑上徑等下徑七寸を天五寸積何經

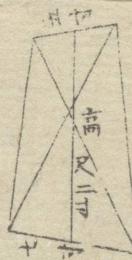
蓄面三十榤。一重四毛八系

御之玄面五寸(下徑)とを別と上徑五寸(下徑)を加  
基とを合内別と並數と引ゆく人五寸をうけ蓄法七  
分八五四とをゆき積とゆき



御之玄面九寸とを合又面六寸とをそそく剝之

今累のどく面徑上徑等下徑七寸を天五寸積何經  
蓄とを合内別と並數と引ゆく人五寸をうけ蓄法七  
分八五四とをゆき積とゆき



今直あり上長八寸下平六寸七寸又二寸と  
御々玄上又五寸一下又七寸とすけ又玄丈人二寸と  
うけ宣法六もろく段とゆる

今如ひの至長九寸平六寸又七寸積筋程と問

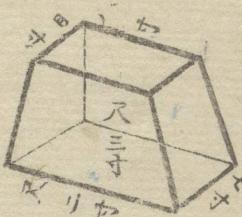
答二百七十八坪

御々田長九寸平六寸と又七寸とぞ積をね

今方丈有上方面守下方面五寸又七寸積と問

答而十世博六分式リン

御田上方面五寸一下方面五寸とぞ上方面下方面と  
是と合内別金數と有端り多モとすけとら刻ん



今直あり上長八寸下平六寸七寸又二寸と  
七寸又二寸とぞ積筋程と問

答二百七十九十二坪

御田長八寸と倍して下平六寸とぞ上方面と  
至る二寸と長八寸と倍して上長八寸と倍下の平  
寸とぞ別金數と想ち又二寸とぞ宣法の六  
坐とぞ積筋とある

今墨の正ぐの無あり積筋の丈二寸積筋程と

答四十七坪上合四つ

御田長八寸と倍して下平六寸とぞ上方面と  
是と合て長八寸とぞ宣法七寸五寸とぞも又五寸  
二三六とぞ積筋とある



徑五寸

音六上五聲四音又

佛くちく徑五寸とを合又足方五寸とを又不

三六セテナ接と也

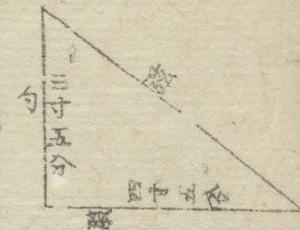
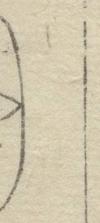
今球あり徑七寸幾何經と同

長垂徑百五十四根素多スリヤ

佛四徑七寸とを合又三四六セテナ接と也



今長立素あり長徑七寸短徑三寸接何經と高  
音接二片九分八厘六毫八絲  
佛四徑三寸とを合又長徑七寸とをも五寸  
大とナ接と也



今勾股あり徑五寸とを合各五寸と同  
音接六寸

佛云勾股五寸とを合各徑五寸とを合る  
數字加三十六步とまと開まといはれ経と也

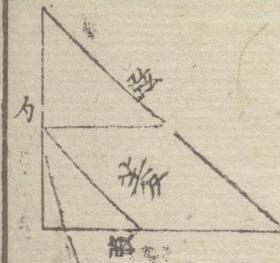
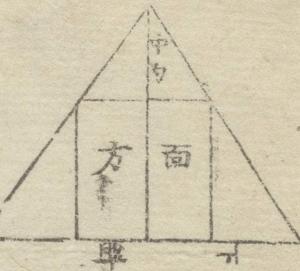
今勾股あり徑五寸とを合和て五寸とを各五寸と同  
音接五寸

佛云徑五寸とを合倍之を内勾股和合入セズとを合る數と引  
涉五百二十九と成る素数ひくに二十ニと沿勾股和合五寸と引  
テテノラ接せらるるを勾股和合五寸の内勾股和合せらる也

今勾の内一方を入る有下斜式天五寸中勾ニ丈方  
面何程同

苦方面 壮人四寸

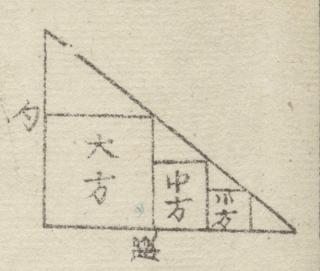
被四寸斜と中勾セ加法と以又下斜と中勾  
と柳法をそり面方壹尺四寸セひるう



今勾役の内一蓋セ入る有下役四尺強五尺蓋面  
何程同

苦武天武寸

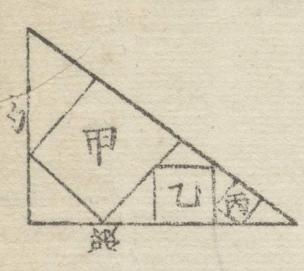
被ニ役セ重法と柳法と役半重法をそり  
法をそり蓋面武天二寸セひる



今勾役の内一蓋セ入る有下役四尺強五尺蓋面  
面壹尺中方面七寸小方面何程と問

苦小方面四寸九寸

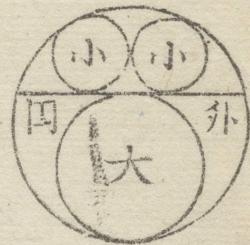
被ニ役セ重法と柳法と役半重法をそり  
小方面四寸九寸セひる



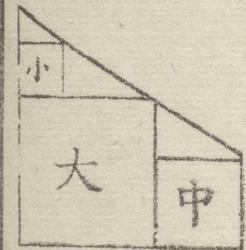
今勾役の内一蓋セ入る有下役四尺強五尺蓋面  
面壹尺丙方面二寸甲方面何程と問

苦甲方面八寸

被ニ役セ重法と柳法と役半重法をそり  
甲方面八寸セひる



今田の内と絃とへども大田一つ小田二つ入るあり  
大田径八寸小田徑六寸外田徑と問  
善外田徑壹尺五寸壹分武至五毛  
佛云小田徑と壹寸一毛を合大田徑八寸八分  
大田徑と小田徑と加外田徑を以て之



今半折の内一小大中小の三方を入る有中方面  
四寸小方面三寸大方面何徑と問  
善

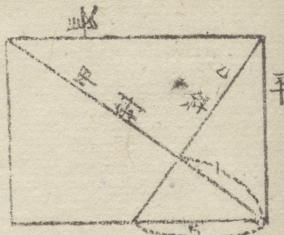
佛云中方面を重小方面を加へて大方面七

寸とあらう

今直角門に甲山二斜と入る有長等甲斜六寸  
口等守イ何徑と問

善 壱寸式ト

佛の長と等口と加法と以甲斜と等口と之  
法を取らうイとゆゑ



今梯の内二等斜と假け共丈も原中間と  
画く有り上段六寸下段壹尺三寸中間と問  
善中間八寸

佛云上段を重下段を加法と取上段を重下段を  
倍一を法を取る中間とゆゑ

八算毛割の見一の法

- 一六ノ割ハ五と毛ハをくる  
三三ノ割ハ八と四と毛る  
五六ノ割ハ七と八でくる  
七ニ入割ハ八と九をくる  
九六ノ割ハ三四八で一毛りくる  
三五ノ割ハ四と毛九をくる  
四六ノ割ハ六で毛九を二毛りくる  
六五ノ割ハ八と毛七と二毛りくる  
八七五ノ割ハ八と毛七と二毛りくる  
二五ノ割ハ五と毛二毛りくる  
七五ノ割ハ九と毛九で一毛りくる  
九九三五ノ割ハ七と毛九で一毛りくる

ハまん毛を割見一の用安記録

右二十六の毛とある毛十九の毛とある毛二毛の毛をも  
それと十六毛とある毛十九の毛とある毛二毛の毛をも  
六とあくゆゑハきんの毛とある毛二毛と十九の毛と  
六とりふゆゑ毛二と八と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
ドキゆゑ毛二と五毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
六二五と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
つうじゆゑ毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
十六と十二と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
四十二の九九毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
四毛と毛と二と毛と二と毛と毛と毛と毛と

西ノ一あつまつちうりきとこ七五の日妻あくつらしのハと  
クナニあくつらハ三とハあくつらが三七五とあうゆゑニとうけ  
ハをこうとあうべし又十七半ふるみのへどうけセをうけ  
あくつらとあくつらとあくつらとあくつら一七五とあうゆゑあう又ニヒ  
五とニセ五とあうゆゑあるとれハ一四〇六ニ五とあることをと日安  
あくつらのハとニあくつらとニあくつらとニとニヒニ  
か九九の黒ハとニあくつら九をうけりとめだとめく見れ  
まくおきくたとび五と六とてどうけとニとニめをうるのみ  
ハニと一はくあくつらと五とあくつらと四五二千にし六とま  
のとニとニあくつらの六とあくつら二とニとニとニと  
クナニとニとニとニとニとニとニとニとニとニとニとニと

猿百回十六こつら回五とそハも割べ

猿六女武ト五至ツと成

五とあう

一五ヶ五

法	寒	分	支	反	百	一	章	◆

法	寒	分	支	反	百	一	章	◆

八四天作五  
八二加下四  
八五六十二

八六十九

新母子の法

人數三十人かくま人共金をあけめたりはしむケ年  
三舍少しへ十度ケ年あり利ち三十度よりとせどサ五  
舍目にさる。此れかうり五舍のうけ全舍え「こす」あくと紀  
年を割武ちの利是あくまつて年。同前に利をひき  
足下令何經と同

新母子の法金四百ト銀廿七百三十八毛

御云まつら武トとあ紀三舍目にそりはトとある。東本多  
是れ先一と加へ一〇にとあると法と底を置ふく一とそり九が  
六一五二ハとあると二十九舍の率とすられか一と加へ三五代  
法ゆくそり一萬八八六〇九とあると二十八舍目の率とあるモ

新母子の法金四百ト銀廿七百三十八毛とあると金を  
十七舍目の率とそ是れ又一と加へ法ゆくそり二萬六  
二九八九とあると二十六舍目の率とすれど金不一とく  
法ゆくそりは益田五一ハとあると二十五舍目の率とすれ  
是れ金の率をあくまけ全金四百五十五舍文八トとある  
是れと金とあくまけ全金四百五十五舍文八トとある  
とある

新母子の法金四百ト銀廿七百三十八毛とあると金を

用意文倍増手本

百七十一

- 朝日文  
三四日六文  
五日四十文  
七日九十六文  
九日三百八十四文  
十日五百三十文  
十二日六百四十四文  
十五日五百七十六文  
十七日九十八文  
十九日二百九十三三百十六文
- 二日武文  
四日十武文  
六日它十八文  
八日百九十二文  
十日七百九十八文  
十二日二千七十武文  
十四日十二千二百八十八文  
十六日四十九千五百五十武文  
十八日百九十六千六百八文  
二十日七百八十六千三百三十二文

廿一日千五百七十千八百六十里文  
廿三日六千一百九千四百零六文  
廿五日二万零六千六百零六文  
廿七日十万〇〇六千六十二三百九十六文  
廿九日四千零三千里零八百零六文  
廿八日八方〇五百三十文  
廿九日八方〇五百三十六文  
三十日八方〇五百三十六文

合金八方〇五百三十文

或方或朱ト  
百十八文

立本の間数と後手

立本の間数を積みみをまきとへ立の累のゆく内段  
本を累と名と號してさとそれより本りと生そうひと長サの  
ちどり。若は本セる本と云。法ニモ紙と云

百七十二

さうてやまととす  
ととをうて下のまよ  
ひとみと小石ゆく

ありりとけ  
かくのぞく

下のまよ  
うよとの  
まよさぐ

えとじて  
木のまよと

えきそそぎより  
木の根をもとあらば



あらぬとけとすふ

林中うざんの事

西月に風父母おとふ十二走うむあせ  
十二走、風は風一月みるもおとせ十二走、  
度也、就き九十九走、放かくのぞく月、  
玉、狂もおも又疎もおも月、に十二走、  
うも月、十二月みの程、放ぞとす

吾、西月六倍父、二百五十七方丈す  
署、二丈、す御云林中、二走、  
七と十二走、之をば古の風言  
あらぬ



まつみ簾

る三十人あり

内先後の五十

五人焉ちうめ

五十五人かくの

七十九人あらず

十にあらず

のけすと二千

行ふるとのも

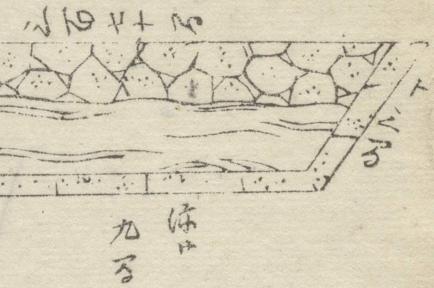
二十九人まき

ウタヒのこれ

まくふ家



どゆだらんと  
ゆふにふす  
ちかくのと  
くたてる人  
さむかをぬ  
を先もひ乃  
すみのれ  
ゆゑき人跡  
ゆよとおれつゆゆあゆうと一又ふのじゆひ石以  
う、我らかくくゆくことび是れ小ちのをすしをき人  
繰りうる先後の方よりうそひがおものふまみのれ  
えりき人のすすみあととくるなり



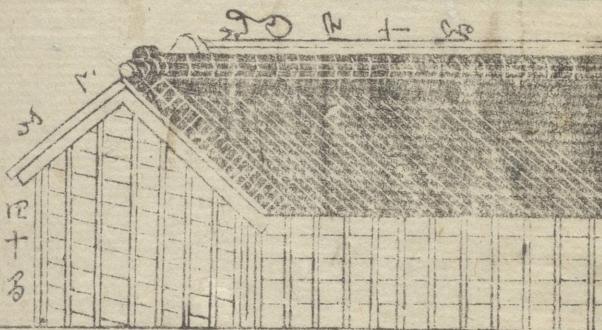
城あらんのこう，并田數俵の事  
ちうりの廣サ十三百塗サ九百丈ニ百七十尺あり  
此塙板石縛と同。若ヒ万ニ千人サハ岸とある  
御四百二十尺九間セラナ百十七坪と歲邑を養サ  
三百七十石ビテケ且テ大方ニ千疊ハ埠とある  
内之城ヒ人數ニふみそ有る。左近一ヶ所の入數  
三百人あり。邑みハ匪何有くあると同。  
若百二十間を以てセす。下六面御主長三面  
七十間ふ。而人セの三夫人あてらる。又

城長四百間、廣五間、又御サ二間、武三間、数四間

若五十五軍、西四トニラレと云。

御二百三十人と空金並二百人、六五セウミハキナ五尺と御又五尺ニ二尺あり。  
五尺ちうりふ六五セウミハキナ五尺と御是ヒカツナ五尺よりとねば三ニ  
スと御是ヒ長ニ百間セテ御主立シテ有る。也セドニ三五ヒカツナアリ。

○たゞくがあらの長ニ百七十尺と上を二十尺、一丈十九尺を  
大寺塗サ五間ふ。有ると北役人毎日武ふ人ヲかくる。なうおの  
のけ協何も二町半。又一尺。八里あやもあーとけふ。人の用  
數何日く仕出と云。若八十五日二回一下九石。○。セハ三と來る。  
御四十九石。差戸二才と金有る。うつと六五セウミハキナ十九尺二才ト  
ある。これ、上をサミる。とくべに十武間武ふとある。これ、御塗サと  
みて。それを二つに分まし。二万九石。三様五石と多。三様不一様  
の高教二百七十五石。とくまし。十萬。七石。三百四十六萬武。五  
屋と底。三足。小切。かくらの底。八町と。三足。五石。三足。七石。三足。  
而武十六町とある。三足。と。三足。の法。二十六町。あて。三足。六百四十九  
石。九百二十石。三足。六石。と。減る。三足。八里。あく。と。ねば。十八万六  
石。三百六十五人。一七。五とある。是と二夫人。あて。三足。九十三日一八  
石。六五三五とある。一八二五。六五二五。三足。一八  
石。九石。○。七八三



家のどうの長家のどの長サ軍間むひの  
長サに十間あつや絲ちぶとると見どき  
かづくがたみするとき丸くらふモサハすま  
がくらをハすみれあ一五すむけのあま  
五枝えすみれにてておひづまううじ数  
あふらどぞへもぞと問

善年がく五万七百枚内六百五十枚  
のれうき丸がく三番み七百五十二枚  
内六百軍八枚のれうりもまみ六百枚入枚  
入るをうじロ合せく八番にあ七十枚入と  
みふなのお外れあふがくるのつあうらふを  
入るをとめなり  
修くちくは十間と倍一八百八十枚六枚と

を五十三まとあると見とひくからうのをくハすあくこゑみ六百  
五十枚とあるとれくふくのりんのれよくろふのくずあうり見と  
枚へう一六百で十八枚とくのりん見のれがくふの數あつま  
屋根を二る倍へ六百に六五とくけくま九天とある見と  
あ記あ一五寸あくこゑみ六七十八枚とあると見にあくらみの  
え六百五十枚とかくわべ年かづくうきと見と  
見るをうり又二丈九尺とれからうの長ハすとくくこゑ六百枚と  
枚セ名半とあるばとあげて四十九枚とく重是ふ方ヒ百枚と  
六百四十八枚とかくはべ丸くらふとくとくに二万ふ七百五  
武放とあくらをう又おむけに十器とハすとくとくそくそくに  
六五とくのりあこ五とくとくからうとくらむのあみふ  
六百二十枚へとあると見

擣舊傳入用土銀の割

擣一ツの八月銀八十武費五百圓を

町中一掛るとて擣ノ西ふ通町

五丁と横行原町二丁あり又

東ふ通ニ丁と横町二町五

町敷合せく十二町と有る

八月銀生を付先西擣をもつて

ちくそまうすを名五丁と

以れ三月づトゲてづく

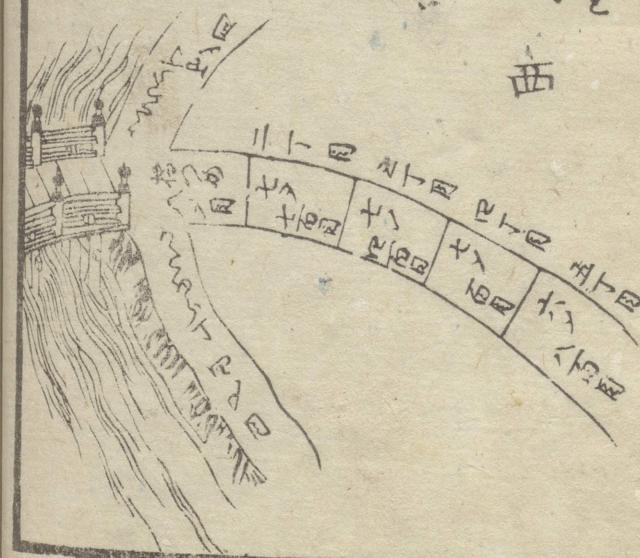
行原町二町の擣づあめあまう

木かづかし又東擣づあめ

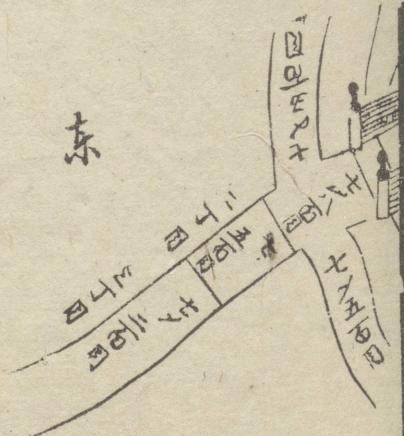
西擣借の當りより武百圓

ちくそまうすをまうすを

西



東



三百目ツ志多云町やのぐひ  
引て出一もと町二下ハ擣借の  
あまう是も三百目ヅあまうて  
出を猿りにとへ何とシ筋程  
づにあまうぞと向財ふ。而擣  
借八百圓西行原町二モ目ツ  
七日モ四百円。丁目七百圓  
日五丁目六、七八百圓あり  
東擣借ヒ世八百圓。东横町七  
日三丁目七百圓。而之御云御云  
又横町二是と金を十五あり。重ふ二百セラ。是が日也五  
百圓とあると見。銀多八十二  
斐五百圓。又東町九

大町小武百目と云ひ其の百目となるこれも根室ニ在る  
合八十八里目あり是を以て熟敷十一町を以て西櫛猿の町  
さへ重用とある也是を以て引く方熟町敷十二町ある  
之十一町小武の事ハ行茶町五十四里



布一纏のにてぬれの  
糸とむふのをぬう  
此をぬうて仍經  
二里三十一町廿三尋五寸  
布長二丈八尺五寸  
毛を盡人毛を毛を毛を毛  
小束五十十七分



盜人和番 一人 余り十一十二纏  
余り八纏 一人 余り十一十二纏  
余り八纏 一人 余り十二十二纏  
余り八纏 一人 余り十三十二纏  
余り八纏 一人 余り十四十二纏  
余り八纏 一人 余り十五十二纏  
余り八纏 一人 余り十六十二纏  
余り八纏 一人 余り十七十二纏  
余り八纏 一人 余り十八十二纏  
余り八纏 一人 余り十九十二纏  
余り八纏 一人 余り二十十二纏  
余り八纏 一人 余り二十一十二纏  
余り八纏 一人 余り二十二十二纏  
余り八纏 一人 余り二十三十二纏  
余り八纏 一人 余り二十四十二纏  
余り八纏 一人 余り二十五十二纏  
余り八纏 一人 余り二十六十二纏  
余り八纏 一人 余り二十七十二纏  
余り八纏 一人 余り二十八十二纏  
余り八纏 一人 余り二十九十二纏  
余り八纏 一人 余り三十十二纏  
余り八纏 一人 余り三十一十二纏  
余り八纏 一人 余り三十二十二纏  
余り八纏 一人 余り三十三十二纏  
余り八纏 一人 余り三十四十二纏  
余り八纏 一人 余り三十五十二纏  
余り八纏 一人 余り三十六十二纏  
余り八纏 一人 余り三十七十二纏  
余り八纏 一人 余り三十八十二纏  
余り八纏 一人 余り三十九十二纏  
余り八纏 一人 余り四十十二纏  
余り八纏 一人 余り四十一十二纏  
余り八纏 一人 余り四十二十二纏  
余り八纏 一人 余り四十三十二纏  
余り八纏 一人 余り四十四十二纏  
余り八纏 一人 余り四十五十二纏  
余り八纏 一人 余り四十六十二纏  
余り八纏 一人 余り四十七十二纏  
余り八纏 一人 余り四十八十二纏  
余り八纏 一人 余り四十九十二纏  
余り八纏 一人 余り五十十二纏  
余り八纏 一人 余り五十一十二纏  
余り八纏 一人 余り五十二十二纏  
余り八纏 一人 余り五十三十二纏  
余り八纏 一人 余り五十四十二纏  
余り八纏 一人 余り五十五十二纏  
余り八纏 一人 余り五十六十二纏  
余り八纏 一人 余り五十七十二纏  
余り八纏 一人 余り五十八十二纏  
余り八纏 一人 余り五十九十二纏  
余り八纏 一人 余り六十十二纏  
余り八纏 一人 余り六十一十二纏  
余り八纏 一人 余り六十二十二纏  
余り八纏 一人 余り六十三十二纏  
余り八纏 一人 余り六十四十二纏  
余り八纏 一人 余り六十五十二纏  
余り八纏 一人 余り六十六十二纏  
余り八纏 一人 余り六十七十二纏  
余り八纏 一人 余り六十八十二纏  
余り八纏 一人 余り六十九十二纏  
余り八纏 一人 余り七十十二纏  
余り八纏 一人 余り七十一十二纏  
余り八纏 一人 余り七十二十二纏  
余り八纏 一人 余り七十三十二纏  
余り八纏 一人 余り七十四十二纏  
余り八纏 一人 余り七十五十二纏  
余り八纏 一人 余り七十六十二纏  
余り八纏 一人 余り七十七十二纏  
余り八纏 一人 余り七十八十二纏  
余り八纏 一人 余り七十九十二纏  
余り八纏 一人 余り八十十二纏  
余り八纏 一人 余り八十一十二纏  
余り八纏 一人 余り八十二十二纏  
余り八纏 一人 余り八十三十二纏  
余り八纏 一人 余り八十四十二纏  
余り八纏 一人 余り八十五十二纏  
余り八纏 一人 余り八十六十二纏  
余り八纏 一人 余り八十七十二纏  
余り八纏 一人 余り八十八十二纏  
余り八纏 一人 余り八十九十二纏  
余り八纏 一人 余り九十十二纏  
余り八纏 一人 余り九十一十二纏  
余り八纏 一人 余り九十二十二纏  
余り八纏 一人 余り九十三十二纏  
余り八纏 一人 余り九十四十二纏  
余り八纏 一人 余り九十五十二纏  
余り八纏 一人 余り九十六十二纏  
余り八纏 一人 余り九十七十二纏  
余り八纏 一人 余り九十八十二纏  
余り八纏 一人 余り九十九十二纏  
余り八纏 一人 余り一百十二纏

何うどう問盜人十人あり布ケモ六十櫛と云御、云取リと  
たゞぬと云ありせし櫛是きまも人數あると是のハ櫛と  
かけ四櫛カア多リと云々と布の数六十櫛とあるなり  
〇又十一えびづるを云々十二櫛ある十四櫛ツ云々が六十九  
たゞぬとりふ因ふ盜人九人布百二十櫛と云  
櫛と有あるとたゞぬと云ありせ二つに亘る人數九人と云々  
あり是ハ十二櫛と十四櫛ハおをどろやニツ云ふるありあり  
十二と十五とりふをハニツオツルありと云ひをあらざるべ

ああと車斗シカウリ一ノロケトモ立れみニ半升と七升  
升とゆく五升ヲ云々因ハ先ニ升半ニ半の合をセ升入バ  
三升半又二升滿るは七升半チニ合せたりと云々ありて云  
云升と七升又半入三升半に一枚入るなり

六里の左とほんじん一ノ人力車ニ挺小舟を  
あすきと死へ車人考く四里半づのうちも  
着を曰車人考く四里半づのうちも  
かくく先づうにゆき車人考く先車人  
人力車ミウカ車里半づをかくまく  
車人ハ三里のうてあうるまく車人を  
ちド先車里半づをかくまく車人ハ三里  
のうちもと考すまく車里のうちも  
をくる人ハよき三里めうくわく車人  
をかくまく車里半づをかくまく  
車人考くまく道法の六里をかくまく



人力車ニ挺とつとも二六十八里とするとの十八里ビ人數四人を  
つゝきべ幸人ちに四里半車づくをうさそおれ四里半と人力車  
の數三挺とつとも幸人を置ふるゆくわづるなり

六寸三分一尺



金五貫目



銀五貫目

六寸  
一尺六寸

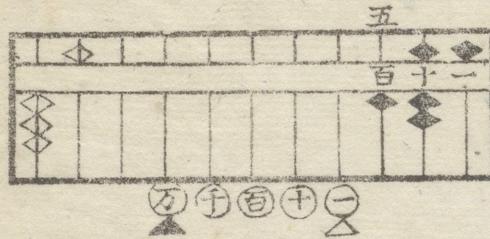
銀五枚の目四十三百石と百半八枚  
そ割ハ三百七枚四八五一とあると  
開手除バ六寸七分四厘七毫写六面

四寸六分  
一尺四寸

○金銀五枚を閑立、候る事  
全五枚と閑立法を曰方六寸六  
一尺六寸三分を原一毛五系四方  
全五枚の目四十三百石と百七十五

枚そそきバ原二百五十一坪四三六尺

## 定位法



位取  
余取  
再出

今米百七十五石あり三万五千人ノ割減幸人を仰得  
善幸人の兩米五谷

實と法(量のどく)重實の物一等

大との位と一千石と法の物

倍と進む法の物二万石万の位で

止る別ノ物とあるを物と實の物

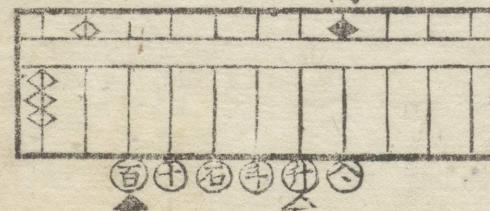
の最初の位とよし商の位とよしも

實の物の倍ハ百石ありうて△の

物と商の物と一百十石斗升

人と宜うを位とよしに商の物へ

人の位とよしに五合とあるより



今銀二千貫〇五百日と千三百五十人、剝落一丈人の取銀と同

若銀式十武五ト

物而銀ニ千〇五百日セ 実ヒトメニ三百五十人セ 法ヒトメニ四百五ト

実ヒ法一ノモニシテ實ヒ物の位の下

物左ヒ一ノ位と實ヒ一千百ヒ法ヒ物

位ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ三ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第一ノ位ヒ商ヒ物ヒ第ヒ二ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第一ノ位ヒ商ヒ物ヒ第ヒ三ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第一ノ位ヒ商ヒ物ヒ第ヒ四ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第一ノ位ヒ商ヒ物ヒ第ヒ五ノ位ヒ

## 定位法

十	メ	草
百	十	一
千	百	十
万	千	百
分	百	十

今銀四十六貫九百タヒ一枚ニ重五毛の紙ヒ實紙數何銀ヒ同

若紙員而ニ十四万枚

物而銀四十六シ九百タヒ一枚ニ代銀ニ重五毛ヒ一枚ニ重五毛ヒ

實ヒ法一ノモニシテ實ヒ物の位の下

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ三ノ位ヒ

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ四ノ位ヒ

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ五ノ位ヒ

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ六ノ位ヒ

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ七ノ位ヒ

物ヒニ止ル別ヒ物の物ヒ第ヒ八ノ位ヒ

## 定位法

一	三	四
重	毛	

實ヒ物ヒ第一ノ位ヒ商ヒ物ヒ第二ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第三ノ位ヒ商ヒ物ヒ第四ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第五ノ位ヒ商ヒ物ヒ第六ノ位ヒ

實ヒ物ヒ第七ノ位ヒ商ヒ物ヒ第八ノ位ヒ

法

高

重	毛

(重) (十) (百)

十	メ	草
百	十	一
千	百	十
万	千	百
分	百	十

今人數十五万有り 人行米四升ヲ渡一石六石爲糧と同

一石六石

## 定位法

大

十	万	升	升
百	升	升	升
千	升	升	升
百	升	升	升
十	升	升	升

(甲)物の位を止む別(一)の柄を事(一)を  
定む實の物位(一)を子を後位と  
定む實の物位(一)を子を後位と  
と子(一)升斗石十石而(一)左(一)  
位を止む別(一)の柄を事(一)を  
六石とあるあり

實

法

## 定位法

二五

厘	毛	升	升
千	升	升	升
百	升	升	升
十	升	升	升
一	升	升	升

今紙產役銀五疋五毛又(一)十五枚の代銀と同

善八粟二而五十由

御(一)一枚の代銀五疋五毛と法(一)十五万枚と實と法と多寡代銀との

實と法(一)量のゆく無實の物の位の

一柄(一)の位と(一)不(一)を(一)法の物

の位(一)と(一)位(一)法の位(一)位(一)

位(一)の位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

實(一)位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

實(一)位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

實(一)位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

實(一)位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

實(一)位(一)止(一)の柄(一)事(一)生(一)

法

厘	毛	升	升
千	升	升	升
百	升	升	升
十	升	升	升
一	升	升	升

厘毛

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

90	九	14	十四	古	一	七	一		
100	百	15	十五	五	二	二	二		
200	二百	16	十六	六	三	三	三		
300	三百	17	十七	七	四	四	四		
		18	十八	六	五	五	五		
		19	十九	九	六	六	六		
		20	二十	三	七	七	七		
		30	三十	三	八	八	八		
		40	四十	四	九	九	九		
		50	五十	五	十	十	十		
		60	六十	卒	十一	十一	十一		
		70	七十	卒	十二	十二	十二		
		80	八十	八	十三	十三	十三		
0	零								

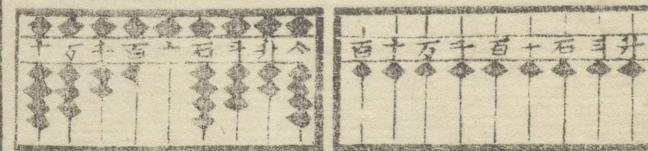
洋 算 罂

西洋數字

同 布 算 之 図



今米十二万三千四百  
五十六石七斗八升九斗加  
九十八万七千六百五十四石  
二斗二升一合を加て右程  
言百十一万千百十一石  
一斗一升  
減入の図



九九合數

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3
2	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2
1	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3
2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	7	2	9	1	8	4	5	2	5	9	4	5	2	9	1	8	4
4	7	2	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4
5	6	3	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2
5	6	3	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2
6	7	4	6	2	4	6	6	3	6	9	7	2	8	6	4	3	2
6	7	4	6	2	4	6	6	3	6	9	7	2	8	6	4	3	2
7	4	7	2	8	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4
7	4	7	2	8	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4
8	5	6	3	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3
8	5	6	3	6	5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3
9	7	4	6	2	4	6	6	3	6	9	7	2	8	6	4	3	2
9	7	4	6	2	4	6	6	3	6	9	7	2	8	6	4	3	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

除法

今銀三ノ百二十文の三分五厘四毫を六百〇五人に

割くべしと云ひを人が銀程の旅と同

着四銀五文六ト七毫

猶々玄實の三分二厘六毫六〇五

五ツ引る也商一五ニ立法の又と

事二十五文の立法の〇と案

一零之始亦法の六と案二千位

法

六〇五

3430,35

3025

実

3430,35

4053

3630

商

56,7

4235

4235

そひは等と共ナ一三〇二五とあると是と實カニ西三十  
 引バ四〇五百十一のこゝと是と實の二とト一加百十一四〇五とト一  
 線秀の下をもれ此中より法の六〇五ハ六ツ引る也(も)六と  
 立法の五〇六と考へニ六シ〇どもと色と先の錢り數四十  
 五三うち引バニ二二のこゝと是と實の五を加(まつ)ひの下(記)  
 高七と立て法五〇六と考へ四ニニ五を加(まつ)ひ

## 立法

今銀五反六小七厘あり是と六百五五を考ヒ何程同

善田銀二反四百三十文。二小五厘

御四五六七と書ミト百十一六〇五と書破五とセと考レニ二十文と考  
 上の六と考ヘニ十と考百十一亦上の五と考百十一考五と考共ニシニハニ五と考  
 先と考の下(記)一亦次の〇と上の七十六五零  
 〇〇〇と考ニハニ五の下(記)ス亦次の六と考  
 七と考ヘニ十二と考百十一亦上の六と考ニ十六と  
 亦上の五と考ヘニ十と考共ニシニ〇二と  
 一〇〇と考ニシニハニ百二文。二小五厘と考

今銀百七十八枚武があり是を九十九除して何銀と問

言銀を數ハトツあり

御刀実の一七八より九九ハ一ツ引至

高八  
百七十八二  
178,2

99  
792  
792

法  
九九  
99

商一七五九九を語上の一七八より是を  
引き去セ九の三るを語ふ上の二を下へ  
七九二を一商一八を立法と考へ  
二を語て是を

今銀を數八をと九十九を算する同へ何銀を數と問

言銀百七十八枚武ト

御刀

位下

一八と書下ト一九九と書九と上の八と書シ

七十二を語又下乗一九を語又次の  
九と八と書シ一七十二を語又一と書シ  
九と八と書シ一六二ニツを合計一七八,二を語  
より一百と位を数べ

今銀百〇四文と十六分除る圓の内程と同

着銀六文五ト

商	大五
大五	6,5
百零	7
四至	96

法  
16  
百零  
四至  
80  
80

術曰寅の一〇四を法の一六ハ六ツ引る又商一六を三  
法の六と乗一乘六をぬ亦商の六と法の一と乗レ  
六と乗は二ツと乗ミ一九十六と成る事カト一紀一  
後模毛ちせり百〇四を九十六で引ハヌヌエ  
只八三六を引くを放シテと書ハリと百八十  
もく商へ五を立法の六と乗一三十をぬ又商の五  
と乗一五をぬて共モ一八十と歟と餘額の紀リヘ  
ト

今銀六文五文あり是を十六分乗一何銀と同

着銀百〇四文

術曰六文五文と付るへ文の位する放さり法の六と三の  
五と乗一二十をぬ亦す六と上の六と乗一三十六をぬ  
共モ一三九〇と乗て模様の下に當べ一後  
乗一六をぬ共モ一六五をぬて二九〇の  
ト一紀一再乗も少引三九〇と六五と共モ一〇四を引  
後りが一千百と位とて百四十と乗る

今全百圓ありをか判りて仕故と同

着 売分判に百枚

百	100
六	60
<hr/>	
六	600
<hr/>	
百	6000

御四百六十と書下六〇と出此〇と  
上の〇〇と乗一〇〇〇〇と乗又六〇〇の

〇〇と乗一六〇〇を乗是と先の〇〇〇

と合六〇〇〇と乗

御四百六十と乗一五と法と一

六〇〇〇の中より一五へ四引ひ更

引ひるゆき商四と乗法の五と乗

又一乗シ六〇を乗ひ

六	6000
百	400
六	60

法	商
六	六
百零四	九六
104	96

百零四	六
四	九
104	96

### 除法位附秘傳

假令ハ根百〇四を十六で除因ハ根六百五を二と取

御四百四と乗と一六と法と一 実と除を因ハ一〇四の

一の中より十六が引ひるゆき又次〇ト一と

共一〇一〇百十一ふあてより又法の十六を引ひ

総て一〇四の中より法の十六を引ひ取

商の六を除一經と引き供し 実の一の中より又  
商の六を百経と引き又実の一〇より引ひ商の六  
を十位と引き又実の一〇四より引ひ一經と引き

算法便付総傳

假公報六枚五トと十六枚一何程差報百の四枚

例四六枚五トと十六枚差い書一枚の一様  
多め差なり又は上下につきまへ  
一位字放付るなり〇最初六と上  
の五と六と差一ニ九〇を加るハ  
三十九枚又次の二と上の五と六  
等六五とゆるハ二十五枚之

6,5  
16  
—  
390  
65  
—  
10  
全一位  
百位

家傳

清涼香

はやドのキ大袋入  
リットル小袋入

政治條文に世を為す事に於て此を用ひては萬物の運営上に益處不  
勝言ふ也。其の本來の性質は、一、あたひある日にはさうでもあり  
。即ちさうでも無い。何れも別べぬ。且  
日本中極めて良水は少く、取て置くことを主  
とすに由りての事うえより多く、多くをも爲む堅実  
がてきまことに居はつて無外の多せと引き合ひたる



電気通信大学附属図書館

